

YAMAHA PIANO PLAYER®

RF
シリーズ

取扱説明書

必ずお読みください

レッスン活用ガイド	2
ご使用になる前に	3
使用上のご注意	4
コントロールユニットについて	6
リモコンについて	8
フロッピーディスクについて	10
ディスプレイについて	12

再生のしかた

再生のしかた	14
選曲	16
早送り・戻し	17

再生時の調節

音量調節	18
移調調節	19
テンポ調節	20

リピート機能

全曲リピート	21
一曲リピート	22
A-Bリピート	23
リターン&ストップ	24

パートキャンセル

パートキャンセル	26
----------	----

ピアノプレーヤソフトについて

	28
--	----

フォーマットのしかた

	29
--	----

録音のしかた(録音/再生型)

録音のしかた	30
--------	----

いろいろな録音機能

録音機能の切替えについて	32
スプリット録音	33
曲名・ディスクタイトルの文字入力	34
一曲消去/全曲消去/再録音	36

MIDI機能

MIDIについて/アンサンブル再生	38
登録について	40
MIDIシステム例	41
ブロックダイアグラム	42
MIDIインプリメンテーションチャート	43

よりよくご活用いただくために

エラーメッセージについて	44
ちょっとお調べください	45
仕様	46
保証とサービスについて	47
ヤマハサービス網	48

レッスン活用ガイド ピアノレッスンに役立つ機能

(1) レッスン用のフロッピーを作りましょう。新しいフロッピーを買ったら？

新しいフロッピーはそのままでは使えません。使う前にフォーマットしましょう。

●フォーマットのしかた……………➡P29

(2) 演奏の録音、再生のしかた

お子様の演奏録音は、成長記録にもなります。録音した曲を再生し、お子様自身の耳で聴いて頂くことにより、間違いを理解、納得。そして直すことができますので、大変効果が上がります。

●録音のしかた……………➡P30

●再生のしかた……………➡P14

(3) 再生しながら使える機能

小さなお子様が自動演奏と合わせる時に、音量を少し下げるとバランスよく聴けます。

●音量調節のしかた……………➡P18

お子様が弾きやすいテンポに落としたり、目標となる速めの演奏が聴けます。

●テンポ調節のしかた……………➡P20

聴音やソルフェージュに活用できる移調調節。

●移調調節のしかた……………➡P19

(4) 読譜・曲想の把握のための繰り返し再生機能

新しく始める曲や装飾音、変音記号の多い曲などは、模範演奏を何度か繰り返し聴かせてあげると全体の感じがつかめます。

●一曲リピートのしかた……………➡P22

(5) ポイントとなる部分を繰り返し再生

いつも間違えて弾いてしまう箇所や、つかえ弾きがとれないところの集中練習に。模範演奏を正しく聴きとったり、一緒に弾くことで効果アップ。

●A-Bリピートのしかた……………➡P23

(6) 片手練習ならおまかせ/パートキャンセルを使いこなそう

パートキャンセルは、曲の右手だけ、又は左手だけを再生する機能。片手練習だけでなく、連弾曲にも幅広く利用できます。

●パートキャンセルのしかた……➡P26

(7) パートキャンセルできるソフトの作り方

スプリット録音は、鍵盤を低音側と高音側の2つに分け、それぞれをLパート・Rパートとして録音する機能。パートの境目を指定するところが通常の録音と違います。

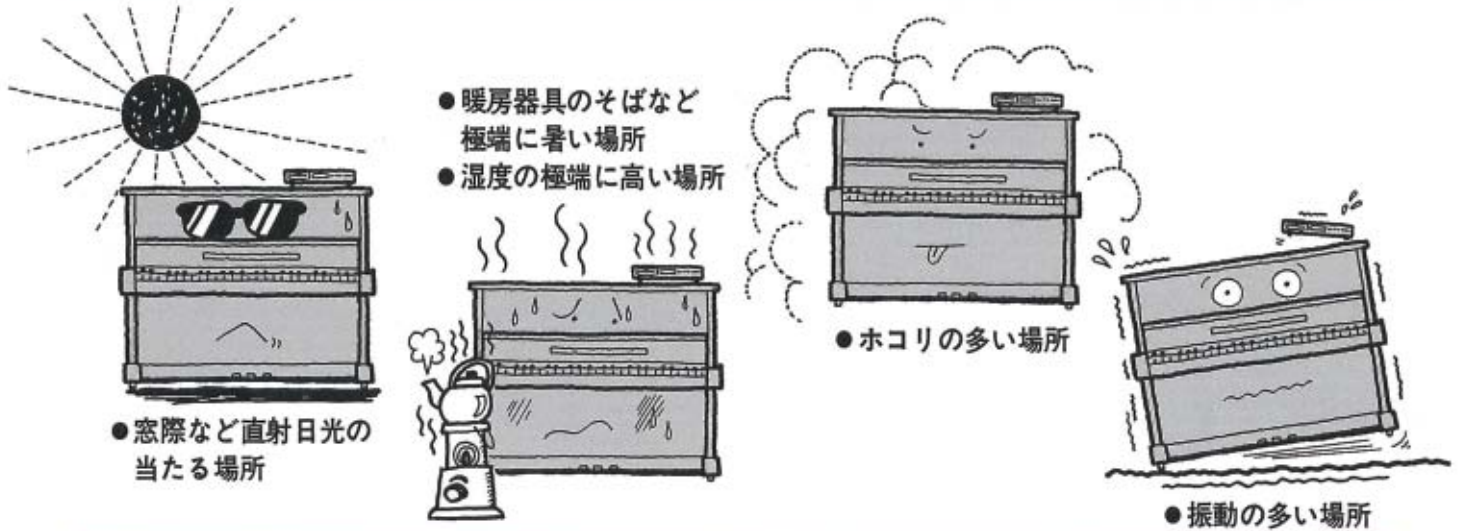
●スプリット録音のしかた……………➡P33

ご使用になる前に

● 付属品をご確認ください

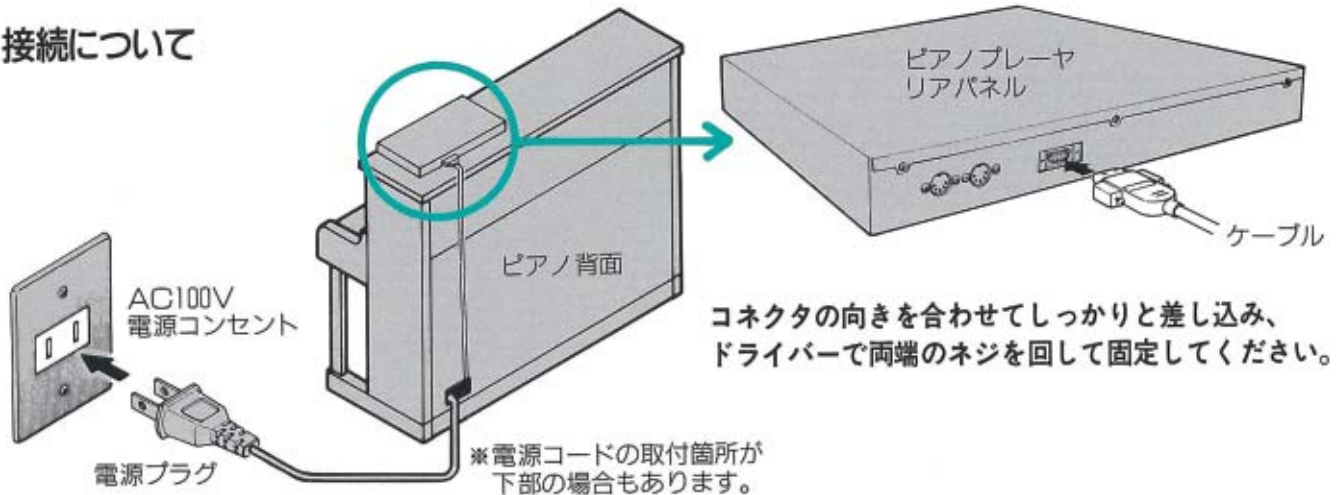
取扱説明書(本書)	×1	(録音/再生型)ジョイフルソフト	(再生専用型)試聴用ソフト
リモコン	×1	ジョイフルガイド	(サウンドライブラリー)
リモコン用電池	単3×2	blankディスク	
		ジョイフルパックビデオ	

● 設置場所について

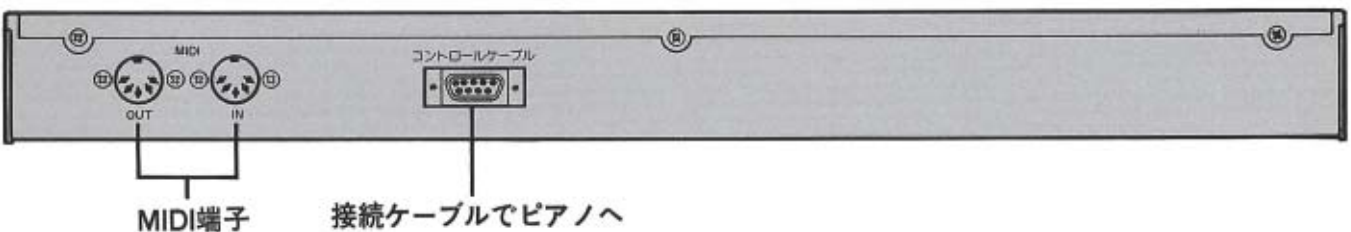


● コントロールユニット背面について

接続について



背面図



使用上のご注意

ピアノプレーヤを永くよい状態でご使用いただくには、次の事柄にご留意ください。



フロッピーディスクについては10ページをご覧ください。

ピアノプレーヤはピアノ本体とエレクトロニクス技術を駆使した自動演奏装置との最適のマッチングの上に性能を発揮します。また、自動演奏のデータを記録しているフロッピーディスクの保管もたいせつです。

1. ピアノ本体の手入れ

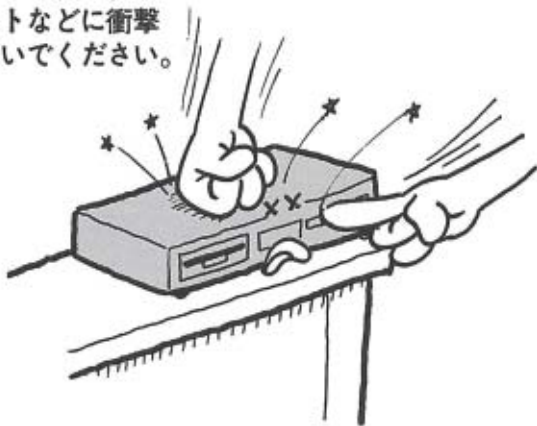
通常のピアノと同じ手入れ（調律など）が必要です。一般のご家庭での使用では、通常、年に1～2回の定期調律をおすすめいたします。

2. 自動演奏装置

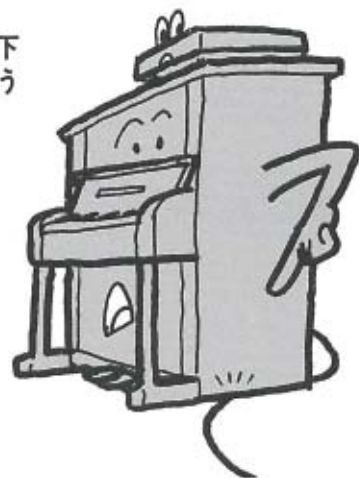
電気系の部品の内、メカニカルな機構を持った部品は、ご使用の時間に伴った消耗が考えられます。1.のピアノ同様、ご使用の頻度にあった定期的点検および調整をおすすめします。

● 取り扱いはていねいに

- スイッチやボタン、キャビネットなどに衝撃を与えないでください。



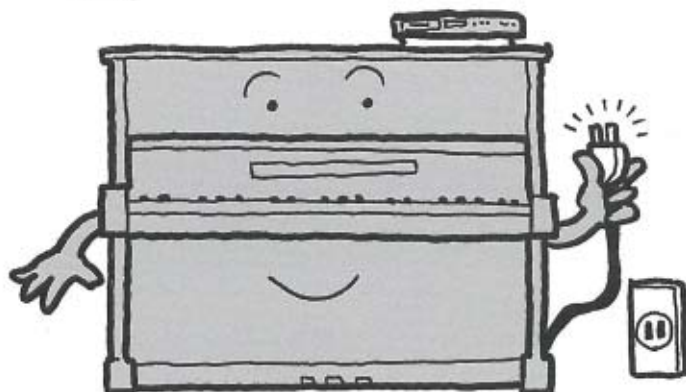
- コード類はピアノの下にはさみ込まないように注意してください。



- キャビネットの上に物を置かないでください。



- コード類を抜き差しする場合は、必ず電源を切ってください。
- コード部分の断線やショートを防ぐため、コード類をはずす時は、必ずプラグを持って引き抜いてください。



●電源について



・本機は日本国内仕様です。必ず、AC100V (50Hz または60Hz) の電源コンセントに接続してください。AC100V 以外の電源は絶対にご使用にならないでください。
長時間ご使用にならない時は、電源コードをコンセントからはずしてください。

●ピアノの前板を開けない



ピアノの前板を開けないでください。もし必要がある場合は、サービス技術者にご相談ください。

●落雷に対する注意



落雷のおそれがあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。

●移動の際には



本機を移動する場合は、コード類の断線やショートを防ぐため、コード類をすべて取りはずしてください。

●他の電気機器への影響について



本機はデジタル回路を多用しているため、ごく近くでラジオやテレビなどを同時にご使用になりますと、ラジオやテレビ側で雑音などが生じることがあります。十分に離してご使用ください。

●フロッピーディスクについて



フロッピーディスクは、ていねいに取り扱いってください。(10ページ参照)

●キャビネットを開けない



キャビネットを開けて内部に手などを入れますと、故障や感電事故を起こすことがあります。何か異物が入ったときには、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。

●水に濡れたら



万一雨が降ったり、花瓶などの水をセットにこぼしたときは、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。

●外装のお手入れについて



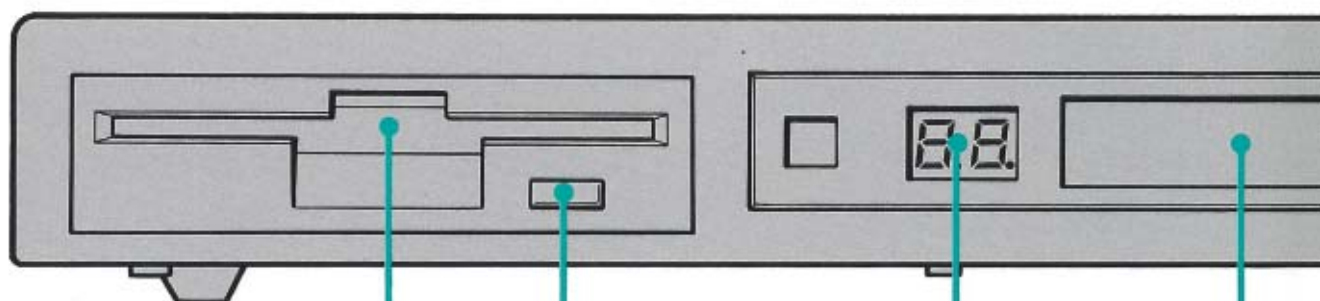
汚れなどのお手入れは柔らかい布でからぶきしてください。ベンジンやシンナーなどの揮発油で外装をふいたり、近くでエアゾールスプレーを散布したりすることは避けてください。

●もう一度調べてください



故障かな?と思ったら、まず45ページの「ちょっとお調べください」をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。

コントロールユニットについて 各ボタンを確認しましょう。



ディスク挿入口 ➡ P11
フロッピーを入れるところ。

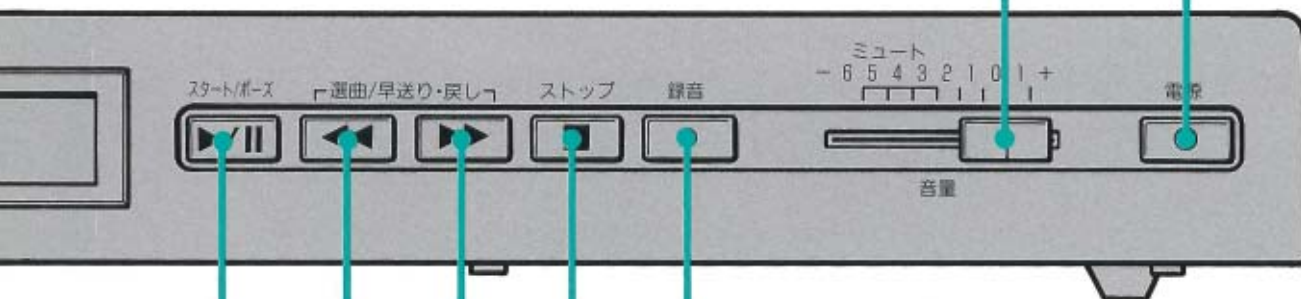
ディスク取出しボタン ➡ P11
フロッピーを取り出します。

曲番号表示部 ➡ P12
曲番号を表示します。

ディスプレイ ➡ P12
曲やフロッピーのタイトル、経過時間、
機能の設定状態、エラーメッセージ
などを表示します。

電源スイッチ ➡ P12・14
電源のON/OFF

音量ボリューム ➡ P18
音量を調節します。



録音ボタン(録再モデルのみ) ➡ P30
録音待機に入ります。
また、録音機能の切替えにも使います。

ストップボタン ➡ P15
演奏を停止させます。再生以外の機能を
終了させる時にも使います。

選曲/早送り・戻しボタン ➡ P16・17
選曲、早送り、早戻しなどを行ないます。

スタート/ポーズボタン ➡ P14
演奏の再生、一時停止(ポーズ)、演奏再開(ポーズ解除)。
録音時には録音のスタートにも使います。

(録再モデルのみ)の表示されているボタン・機能は
ピアノプレーヤ録音/再生型のみボタン・機能で、再生専用型にはありません。

リモコンについて 各ボタンを確認しましょう。

リモコンのみの再生機能

コントロールユニットの
各ボタンと同じ働きをします。

パートキャンセルボタン

*L/R対応ソフトの再生の際、
L(左手)又はR(右手)のパート
をキャンセルし、片手ずつの再
生ができます。スプリット録音
をする時にも使います。(録再モ
デルのみ)

⇒ P26

リピートボタン

全曲・一曲・A-Bを選び、くり返
し再生ができます。

⇒ P21

移調ボタン

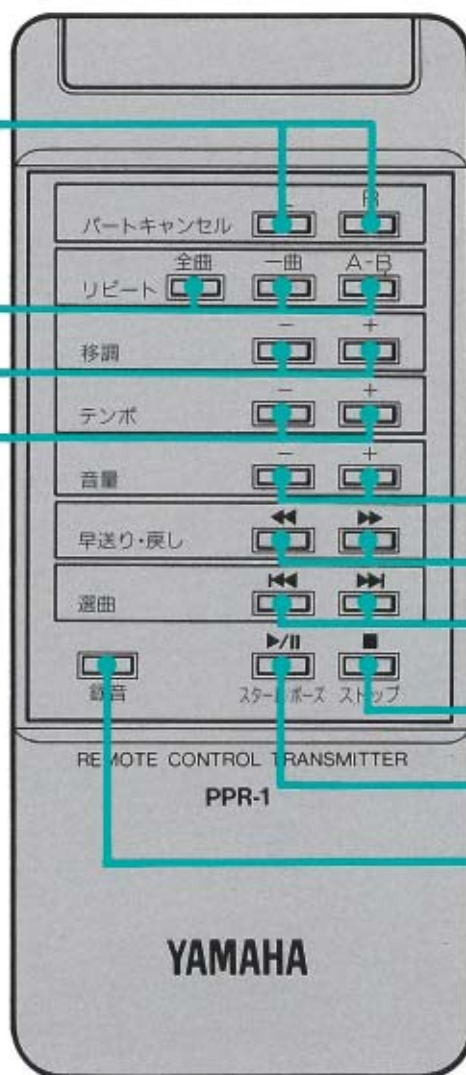
半音ごとに±6keyと±1オクタ
ーブ、±2オクターブの上下各8
段階の移調再生ができます。

⇒ P19

テンポ調節ボタン

-50%・-40%・-30%・-20%・
-10%・-5%・標準・+5%・+10
%・+20%の10段階に再生テン
ポを調節できます。

⇒ P20



音量ボタン

早送り・戻しボタン

選曲ボタン

ストップボタン

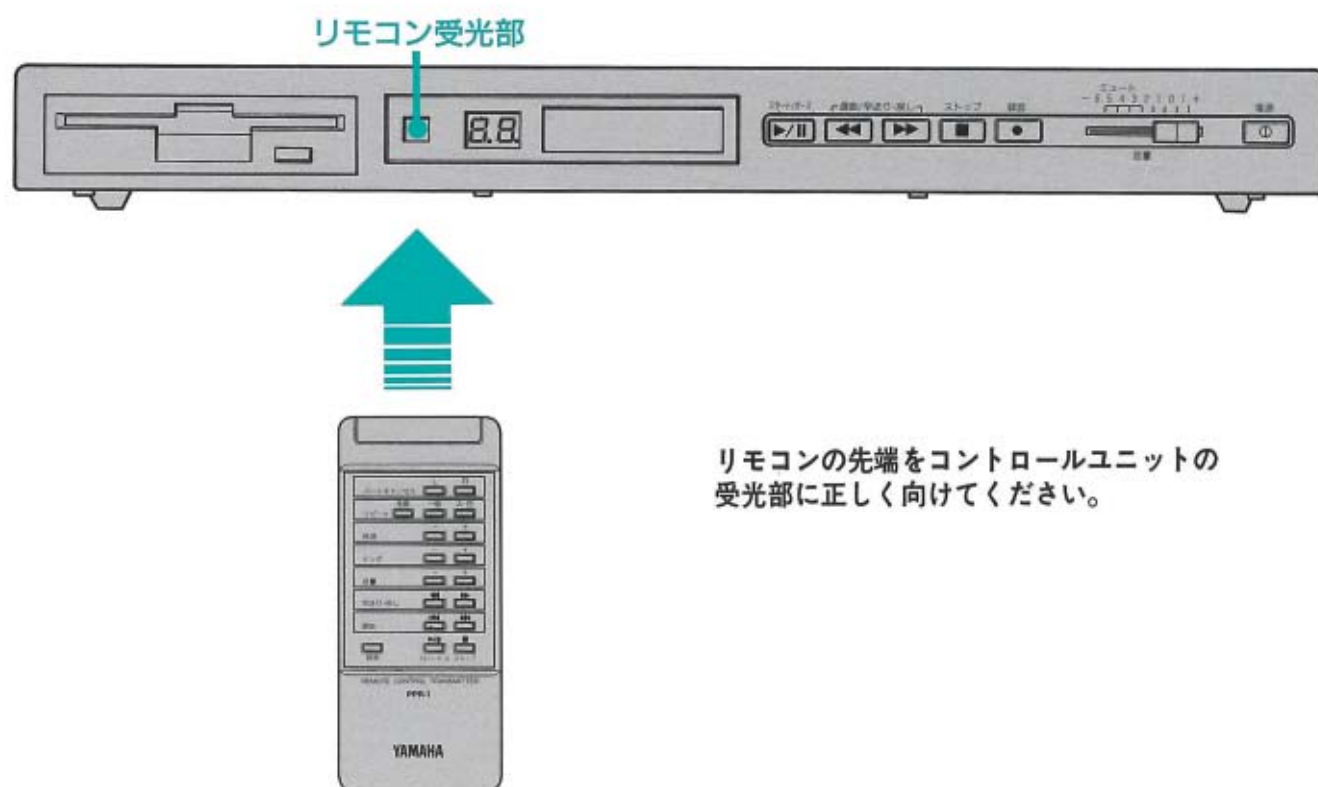
スタート/ポーズボタン

録音ボタン
(録再モデルのみ)

※録再モデルの図です。

(録再モデルのみ)の表示されているボタン・機能は、ピアノプレーヤ録音/再生型のみのボタン・機能で再生専用型にはありません。

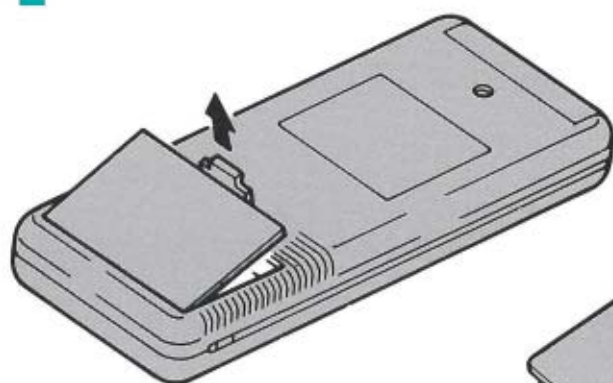
● リモコンの使い方



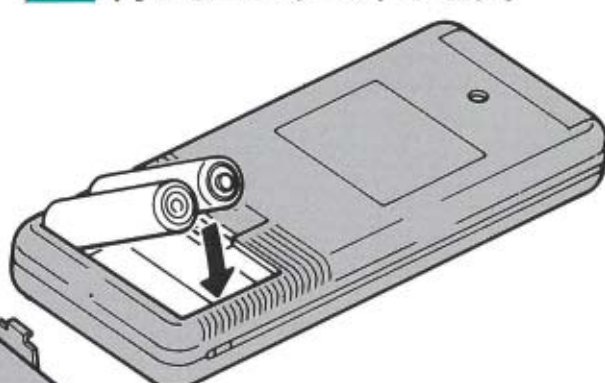
● 乾電池のセット

● リモコンに使用する乾電池は、単3×2本です。

1 裏面のバッテリーカバーをはずします。



2 電池ケース内の指示通りに+と-の向きを正しくセットします。



3 バッテリーカバーを元に戻します。

● 電池交換について

リモコンで操作できる距離が短くなってきたら、電池を交換してください。

同じタイプの電池を2本同時に交換してください。

リモコンを長期間使用しない場合は、液もれを防ぐため、電池を出して保管してください。

フロッピーディスクについて

●規格について

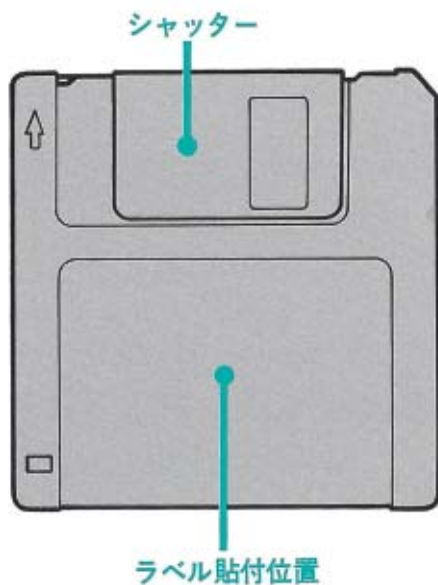
ピアノプレーヤで使えるフロッピーディスクは、3.5インチ、2DDタイプです。これ以外のタイプだとピアノプレーヤでは使えません。

※推奨品：ヤマハYFD-2DD

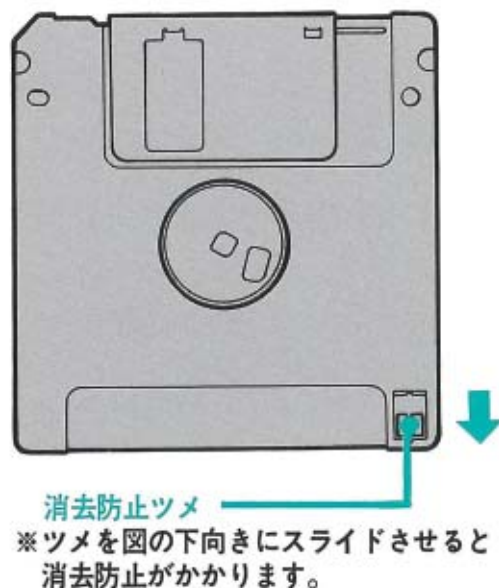
●取り扱いについて

シャッターをスライドさせて磁性体面に触れないでください。
ホコリ、煙、スプレーなどがかからないよう、ご使用ください。
汚れが付着したり、傷がつくと使用不可能になることがあります。
テレビ、ラジオ、スピーカーなど、磁気を帯びたものに近づけないでください。
低温(4℃以下)や高温(52℃以上)の場所に保管しないでください。

《表面》



《裏面》



●消去防止について

●たいせつな録音内容を誤って消さないために

フロッピー裏面の消去防止ツメをスライドして、穴のあいた状態にすると、消去防止をかけることができます。消去防止をかけると、録音などができなくなり、フロッピーに入った演奏を保護します。

●再び録音したいときは

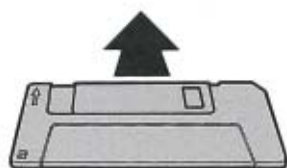
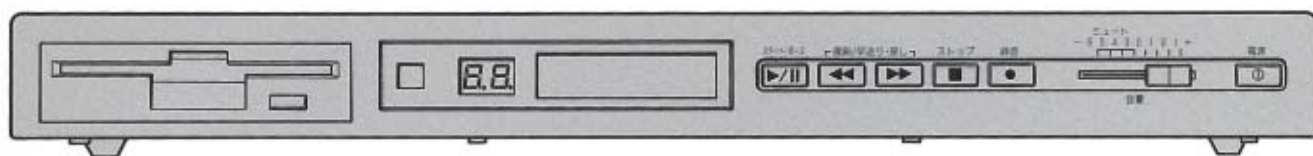
消去防止ツメをスライドさせ、元通り穴のとじた状態にすれば、ふつうの状態に戻ります。

●フォーマットについて

録音用の新しいフロッピーは必ずフォーマットしてから使います。

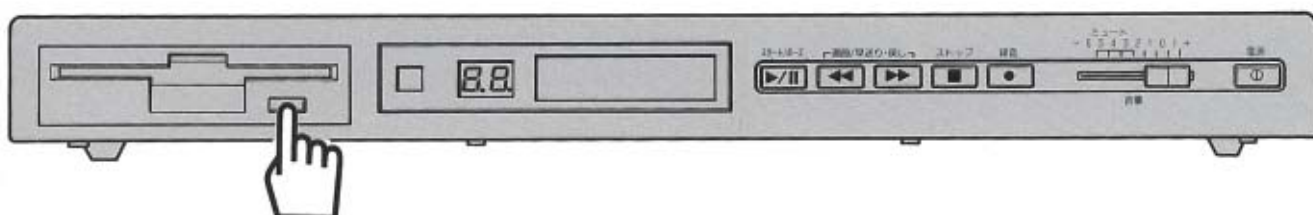
➡フォーマットのしかた  P29

●フロッピーの入れ方



表面を上にし、シャッター側から、フロッピー挿入口に入れます。
必ず表面を確認し、裏向きには絶対に入れないでください。

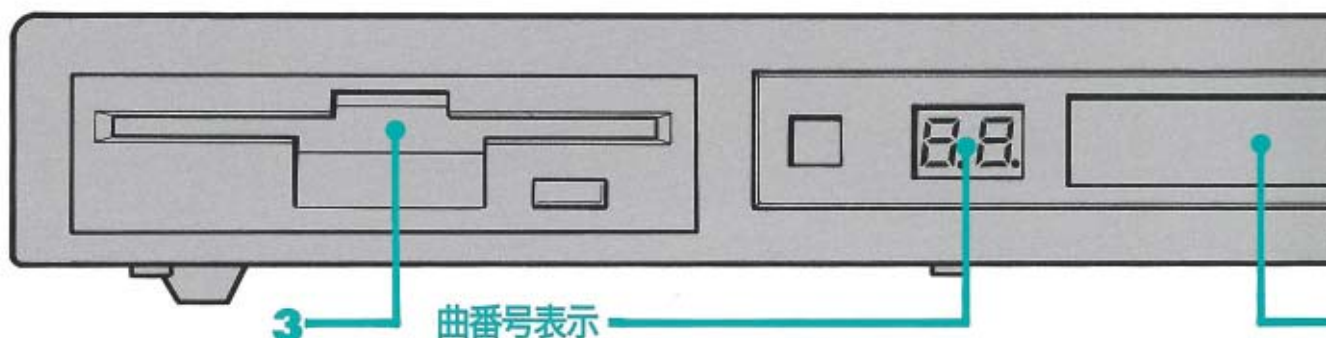
●フロッピーの出し方



ディスク取出しボタンを押すと、フロッピーが出てきます。

- 演奏中、録音中、「シバラク オマチクダサイ」の表示中は、絶対にフロッピーを取り出さないでください。
- 使い終わったら、フロッピーを取り出し、電源を切っておくよう、習慣づけましょう。

ディスプレイについて いろいろなメッセージを表示します。



3 曲番号表示

再生・録音する曲番号を表示します。録音できる曲数は最大60曲です。録音待機に入ると、自動的にまだ録音されていない曲番号を表示します。

基本操作

1 電源スイッチを押してください。

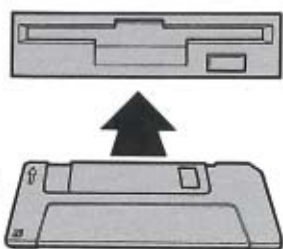


**** YAMAHA ****
* PIANO PLAYER *

2 すぐ下の表示になります。

ディスク イレクタ サイ。

3 フロッピーを入れます。



次の表示がでるまでお待ちください。この表示中にディスクをぬかないでください。

シハラク オマチクタサイ。

4 ディスクタイトルが流れます。

←表示流れる

YPD-1014 ヤマハ

5 曲名表示になります。(約10秒後)

01 メタカノカッコウ

再生時

現在選曲されている曲名・曲の経過時間を表示します。

曲名(2段にわたって表示されます。曲名と時間等の表示と重なるときは、曲名の一部が欠けます。)

01 メタカノカッコウ
(00:12)

↑再生経過時間

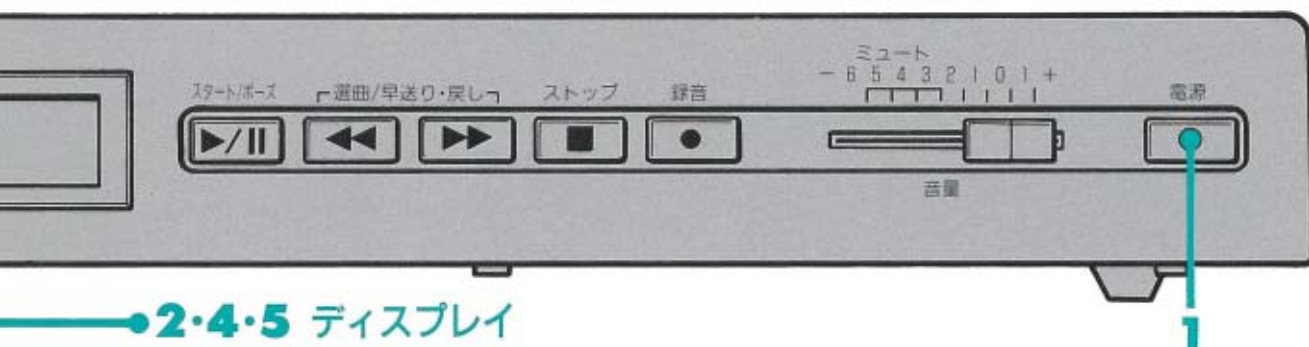
再生時に調節できる機能の設定状態を表示します。

音量調節 P18
VOLUME +1
(00:12)

パートキャンセル P26
LR (00:12)

リピート機能 P21
all-rpt (00:12)

移調機能 P19 テンポ調節 P20
+1 key +05%
(00:12)



2.4.5 ディスプレイ

録音時(録再モデルのみ)

録音経過時間・音量レベル・フロッピーの残量を表示します。




その他


さまざまな機能の使用時に設定項目などを表示します。

➡ 各機能のページでご確認ください。

エラーメッセージ

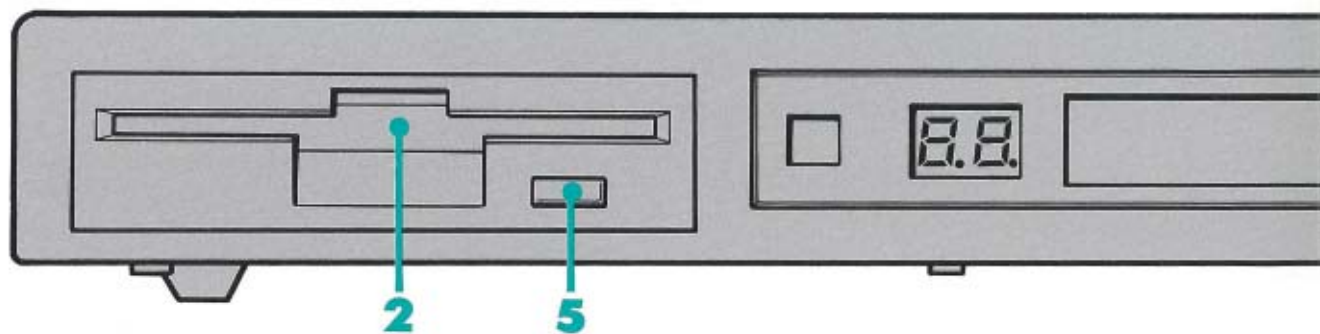
不適当な操作を行なおうとした場合などに警告やエラーメッセージを表示します。

- 

ディスクフォーマットされません。
未使用のディスクに録音しようとしたときに表示されます。
フォーマットのしかたをご覧ください。
➡ P29
- 


ディスクフォーマットできません。
消去防止のツメを戻してから、録音操作をしてください。
エラーメッセージについて **➡ P44**

再生のしかた



再生

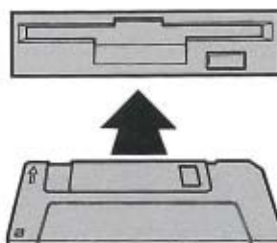
1 電源スイッチを押します。



電源

テ・ィスクラ イレテクタ・サイ。

2 フロッピーディスクを入れます。



シハ・ラクオマチクタ・サイ

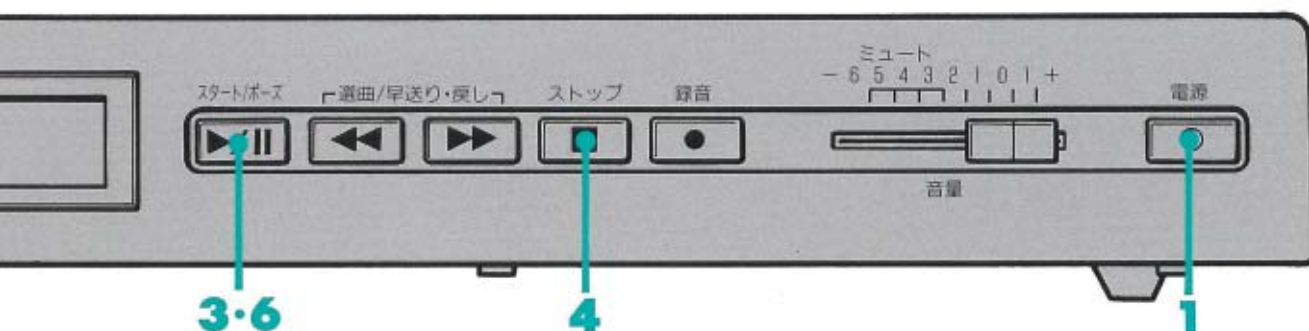
YPD-1014 ヤマハ

01 メタ・ガノカ・ッコウ

4 演奏をストップ

3 演奏をスタート

6 演奏を一時停止



3 スタート/ポーズボタンを押します。



01

メタカノカッコウ
(00:00)

再生をやめる

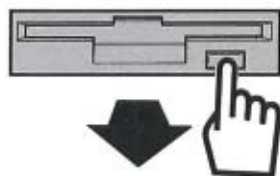
4 再生をやめるときはストップボタンを押します。



01

メタカノカッコウ

5 フロッピーを取り出すときはディスク取り出しボタンを押します。



一時停止

6 再生を一時停止したいときはスタート/ポーズボタンを押します。再スタートしたいときはもう一度押します。

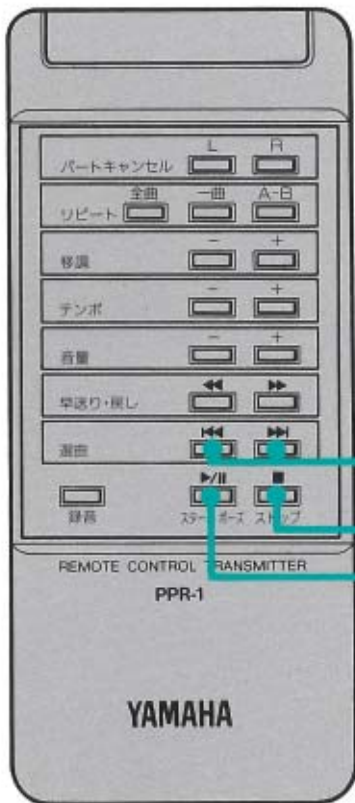
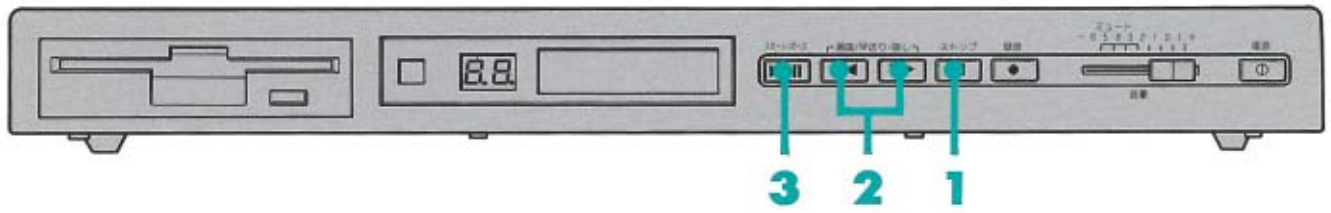


POINT

ペダルの再生について

- ラウドペダル(右側のペダル)の効果を再生します。ペダルは動きませんが、内部を駆動しています。

選曲 聴きたい曲を選ぶ。



- 2 曲を選びます
- 1 演奏をストップ
- 3 演奏をスタート

1 ストップボタンを押して曲を停止させます。



01

メタカノカッコウ

2 選曲/早送り・戻しボタンを押して聴きたい曲を選びます。



02

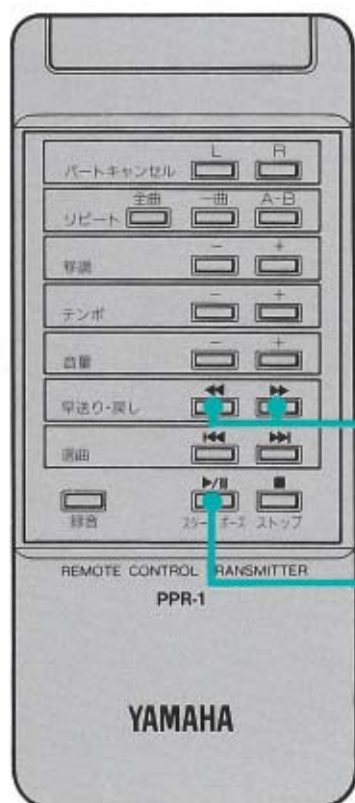
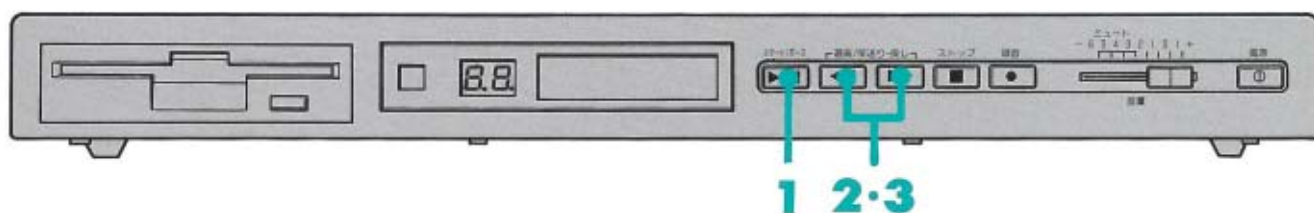
ホシニネカイロ

選んだ曲が表示されます

3 スタート/ポーズボタンで演奏スタート。



早送り・戻し 聴きたいところを探す。



聴きたいところ
を探します

もう一度押せば
演奏を再開

演奏をスタート

1 スタート/ポーズボタンを押して演奏スタート。



02

ホシニ ネカ*イヲ
(00:01)

2 選曲/早送り・戻しボタンを押して曲の聴きたいところを探します。



(押し続けなくても大丈夫です。)

02

ホシニ ネカ*イヲ
(00:47)

経過時間が進む

3 もう一度同じ向きの選曲/早送り・戻しボタンを押せば演奏再開。

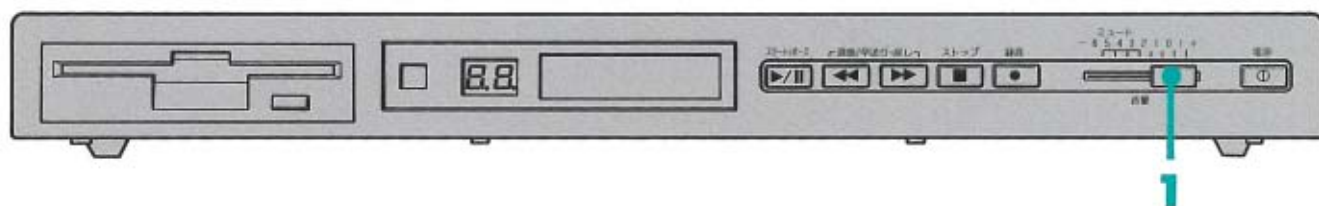


希望するところが来たらもう1度押す。

POINT

- 早送り・戻しは曲を始めと終りでストップします。
- リモコンには早送り・戻し専用のボタンがありますので、停止中でも早送り・戻しが可能です。

音量調節 音の大きさを変えて再生する。



+ボタンで大きく
-ボタンで小さく

1 音量ボリュームをスライドさせて調節します。再生中・停止中とも操作できます。

ミュート
-6 5 4 3 2 1 0 1 +



音量 小 ← → 音量 大

VOLUME 0

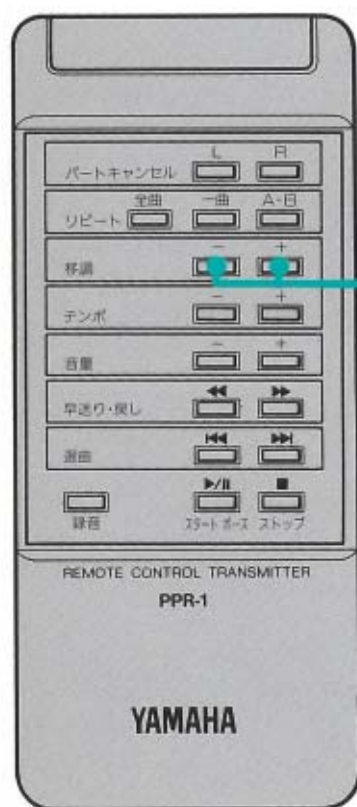
↑
選んだ音量の値がディスプレイに表示され、約10秒間点滅します。

リモコンで調節するときは、音量ボタンの+又は-を押します。
ボタンは押してすぐ離すと1ランクずつ変化しますが、ずっと押し続けるとどんどん変化していきます。但し、ボリューム「0」で一旦とまります。音量が変化しても、コントロールユニットのボリュームの位置は動きません。

POINT

- 音量調節はノーマルモード[-2~+1]。弱音再生用のミュートモード[-6~-3]の全部で8段階から選べます。
- オリジナルにいちばん近い音量は0(標準)です。
- ノーマル/ミュートの各モードへの切換時、ミュート機構用のモーターが作動しますので「ジー」という音が出ます。又、ミュートモード再生時は鍵盤が不揃いになることもありますが、支障ありません。
- 楽曲により弱音量で再生したとき、連打などのパッセージで音抜けする場合は、音量を上げてください。(ピアノプレーヤーは実際に鍵盤とアクションを動かして再生するためです)
- 自動演奏を楽しむ環境・お好み・楽曲に合った音量をお選びください。
- ミュート再生に音量レベルをセットしますと、ピアノの鍵盤が不揃いになることもありますが、支障ありません。

移調調節 キー(調)を変えて再生する。



+ボタンで高く
-ボタンで低く

1 移調再生したいときは、移調ボタンの+又は-を押します。

ボタンは押してすぐ離すと1ランクずつ移調しますが、ずっと押し続けるとどんどん移調していきます。但し「原調」の位置で一旦とまります。

キーを高くしたいときは+ボタンを押します。



```
+1key normal
<00:01>
```

キーを低くしたいときは-ボタンを押します。



```
-1key normal
<00:01>
```

PO!NT



表示	調
+2oct	C
+1oct	C
+6key	F#
+5key	F
+4key	E
+3key	D#
+2key	D
+1key	C#
normal(標準)	C(原調)
-1key	B
-2key	B \flat
-3key	A
-4key	A \flat
-5key	G
-6key	G \flat
-1oct	C
-2oct	C

- 移調の範囲は半音ごとに上、下それぞれ6keyと、オクターブ単位で上、下それぞれ1オクターブ、2オクターブです。
- 再生中・停止中とも操作できます。
- 原調への復帰は現在の調子が標準より-方向にあるときは+ボタンを、+方向にあるときは-ボタンを押し続けます。原調に復帰するととまります。

テンポ調節 テンポを変えて再生する。



+ボタンで速く
-ボタンで遅く

1 再生のテンポを変えたいときは、テンポボタンの+又は-を押します。

ボタンは押してすぐ離すと1ランクずつ変化しますが、ずっと押し続けるとどんどん変化していきます。尚、テンポ「Normal」に向けて押し続けると、テンポ「Normal」で一旦とまります。さらに変化させたい時はもう一度押します。

テンポを速くしたいときは+ボタンを押します。



normal +05%
(00:01)

テンポを遅くしたいときは-ボタンを押します。



normal -05%
(00:01)

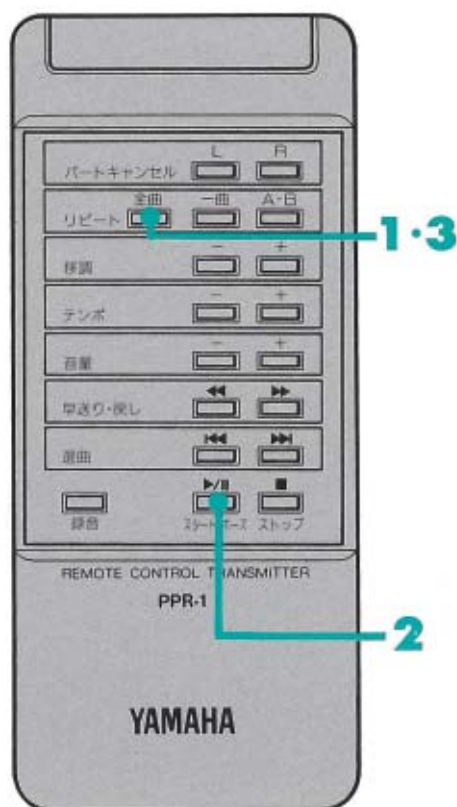
POINT

早くなる ↑ おそくなる ↓	+	+20%
		+10%
		+05%
		normal (標準)
		-05%
		-10%
		-20%
		-30%
		-40%
		-50%
	-	

- テンポは-50%~+20%の範囲で10段階に調節できます。
- 再生中・停止中とも操作できます。
- 標準テンポへの復帰は現在のテンポが標準より-方向にあるときは+ボタンを、+方向にあるときは-ボタンを押し続けます。標準テンポに復帰するととまります。

全曲リピート 全曲を繰り返し演奏する。

全曲リピートはフロッピーに入った全曲をまるごと繰り返し演奏させる機能です。おさらいや鑑賞会に活用したり、BGM風に流すなどの使い方ができます。



1 全曲ボタンを押します。

02 ホシニ ネカ・イヲ
all-rpt <00:00>

2 スタート/ポーズボタンを押せばリピート演奏がスタート。

02 ホシニ ネカ・イヲ
all-rpt <00:01>

3 もう一度全曲ボタンを押せばリピートは解除され、ふつうの再生に戻ります。

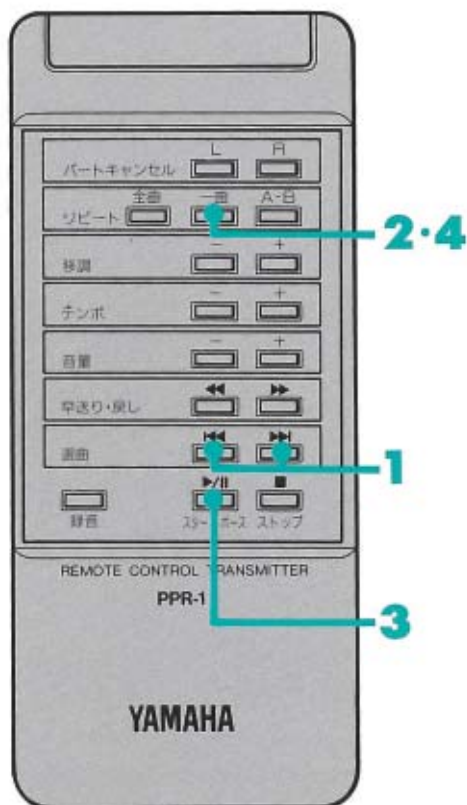
02 ホシニネカ・イヲ
<00:47>

POINT

- 再生中・停止中とも操作できます。
- パートキャンセルしながら、リピートさせるなど他の機能を組み合わせて活用できます。

一曲リピート 1曲を繰り返し演奏する。

一曲リピートは1曲を繰り返し演奏させる機能です。レッスンで新しく始める曲や装飾音・変音記号の多い曲などは、模範演奏を何度か繰り返し聴くことで、全体の感じがつかみやすくなります。



1 選曲ボタンを押して繰り返し聴きたい曲番号を選びます。
ディスプレイに曲名と曲番号が表示されます。

02 ホシニ ネカ・イヲ

2 一曲ボタンを押します。

02 ホシニ ネカ・イヲ
rpt 〈00:00〉

3 スタート/ポーズボタンを押せば、一曲リピート演奏がスタート。

02 ホシニ ネカ・イヲ
rpt 〈00:01〉

4 もう一度一曲ボタンを押せばリピートは解除され、ふつうの再生に戻ります。

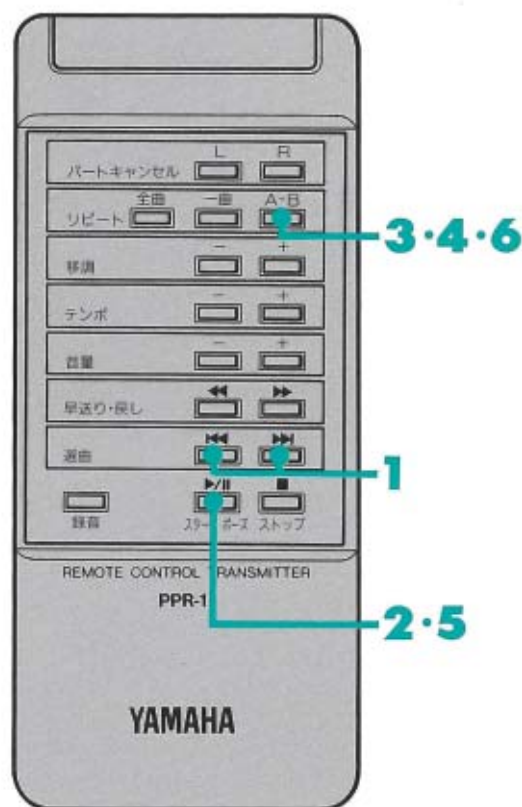
02 ホシニ ネカ・イヲ
 〈00:47〉

POINT

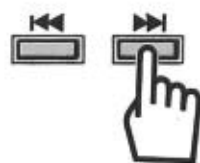
- テンポ機能を使って、よくわからないところをゆっくり聞いたり、ソルフェージュなどの時に移調機能を使って、だんだん音程を上げるなど、他の機能と組み合わせて活用できます。
- 再生中に一曲ボタンを押すと、その時演奏されている曲が一曲リピート演奏されます。

A-Bリピート 1曲中の2点間を繰り返し再生する。

A-Bリピートは1曲中の2点(A・B)を指定し、B点まで行くと自動的にA点まで戻って一時停止する機能です。いつも間違えてしまう箇所や、つかえ弾きが取れないところ、また歌いかたが不安定なところなどの集中練習に利用すると効果的です。



1 選曲ボタンを押して、繰り返し聴きたい曲番号を選びます。



ディスプレイに曲名と曲番号が表示されます。

02

ホシニ ネカ・イロ

2 スタート/ポーズボタンを押して、演奏スタート。



02

ホシニ ネカ・イロ

〈00:01〉

3 繰り返し聴きたい部分のあたまのところ、A-Bボタンを押してA点をセットします。



02

ホシニ ネカ・イロ

A-set 〈00:47〉

A点の経過時間 ↑

4 繰り返し聴きたい部分の終わりのところで、A-Bボタンを押します。B点がセットされ、演奏はストップし、A点まで自動的に早戻しされます。



02

ホシニ ネカ・イロ

AB-rpt 〈00:47〉

A点の経過時間まで戻る ↑

5 スタート/ポーズボタンを押すと、A点から演奏がスタート。



B点まで行くと自動的にA点に戻ります。(再びスタート/ポーズボタンを押すと再生を開始します。)



6 もう一度A-Bボタンを押せば、A-Bリピートは解除され、通常の再生に戻ります。

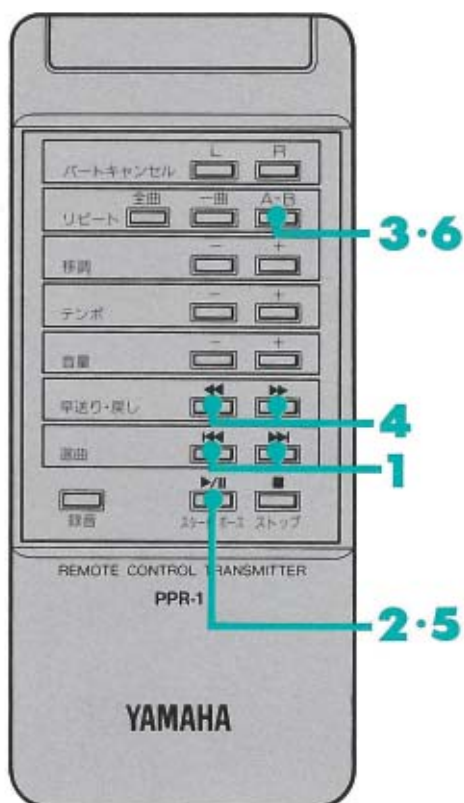


POINT

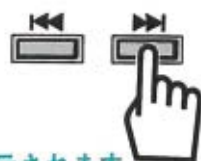
● A-Bリピートの操作は曲を再生させながら行ないます。

リターン&ストップ 1点に戻って繰り返し再生する。

リターン&ストップはA点のみを指定し、早戻しするとA点で一時停止する機能です。曲の途中から何回も繰り返し再生したい時に使います。A-Bリピートと違って曲中のA点以降のどの地点からでもA点に戻せます。



1 選曲ボタンを押して繰り返し聴きたい曲を選びます。



ディスプレイに曲名と曲番号が表示されます。

02

ホシニ ネカ*イヲ

2 スタート/ポーズボタンを押して再生スタート。



02

ホシニ ネカ*イヲ

<00:01>

3 繰り返し聴きたい部分のあたまのところではA-Bボタンを押してA点をセットします。

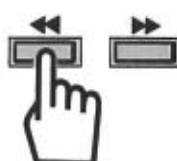


02

ホシニ ネカ*イヲ

A-set <00:12>

4 早戻しボタンを押すと、演奏が止まり、自動的に指定したA点まで早戻しされ停止します。



02

ホシニ ネカ*イヲ

A-set <00:12>

6 演奏中に、A-Bボタンを2回押すとリターン&ストップは解除され、ふつうの再生に戻ります。



02

ホシニ ネカ*イヲ
<00:47>

5 スタート/ポーズボタンを押すとA点から再生がスタートします。

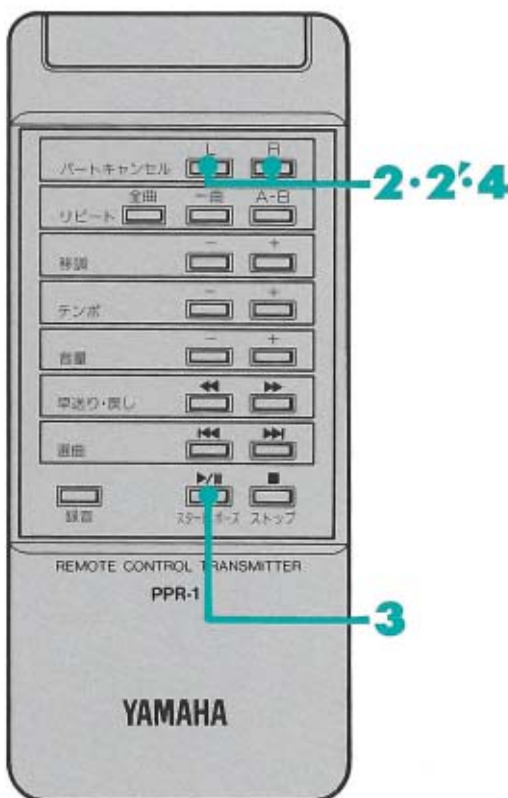


POINT

● 2曲以上にまたがって使用することはできません。

パートキャンセル L/R対応曲をパート別に再生する。

パートキャンセルはL/R対応ソフトやスプリット録音した曲の聴きたいパートだけを再生させることができる機能です。片手練習だけでなく連弾曲やポップス曲などにも幅広く活用できます。



1 パートキャンセルボタンL・Rのうち、キャンセルしたい方を選びます。Lは低音側・左手パート、Rは高音側・右手パートです。

2 ペダル効果をキャンセルしないで、残ったパートと一緒に再生したい時は、ボタンを1回押します。



(L ボタンを押した場合)

○○○○○○
-R (00:00)

↑
-表示となるとLパートの鍵盤再生はキャンセルされますがペダルは再生されます。

2' ペダル効果もキャンセルしたい時はボタンを2回押します。



(L ボタンを押した場合)

○○○○○○
*R (00:00)

↑
*表示となるとLパートの鍵盤再生とともにペダルの再生もキャンセルされます。

3 スタート/ポーズボタンを押すと、パートキャンセル再生がスタートします。



4 通常の再生に戻したい時は、**2**の設定の場合はもう2回、**2'**の設定の場合はもう1回、同じボタンを押します。



(L ボタンを押した場合)

○○○○○○
LR (00:47)

↑
L表示となるとLパートの鍵盤もペダルも再生されます。

〈ボタンを押す回数と表示の変化〉



- 再生中・停止中とも操作できます。
- L/Rに対応していないソフトやふつうの録音で録った曲はパートキャンセルできません。
- 音量・テンポ・移調調節やリピート機能を併用することもできます。

〈パートキャンセルの状態一覧〉

ディスプレイ表示により現在のパートキャンセルの状態がわかります。

	L・Rのボタン選択と 押す回数	ディス プレイ表示	再生の状態			備 考
			左手	ペダル	右手	
1	Rを1回押す	L-	○	○	×	L：左手パート再生
2	Rを2回押す	L*	○	×	×	R：右手パート再生
3	Lを1回押す	-R	×	○	○	-：ペダル効果あり
4	Lを2回押す	*R	×	×	○	*：ペダル効果なし
5	Lを2回・Rを1回押す	*-	×	×	×	
6	Lを1回・Rを2回押す	-*	×	×	×	
7	Lを2回・Rを2回押す	**	○	×	○	
8	Lを1回・Rを1回押す	--	×	○	×	
9	Lを3回・Rを3回押す (パートキャンセル解除の状態)	LR	○	○	○	

※但しLを2回、Rを2回押すとペダル効果なしの通常演奏を再生します。

POINT

〈L/R対応曲とは〉

- ミュージック・スタディ・シリーズやレッスンライブラリー、連弾曲などに多く採用されている左手パートと右手パートを別々に再生できるタイプのソフトと、カラオケ・シリーズのようにメロディのパートと伴奏のパートに分けて再生できるものがあります。

ピアノプレーヤソフトについて [P28](#)

- スプリットポイントを指定して録音したソフトもL/R対応曲となります。 [スプリット録音 P33](#)
- 市販のピアノプレーヤソフトで「ペダルによる予備カウント」と表示されているものは、RFシリーズでは〈曲番表示部の点滅による予備カウント〉となります。

ピアノプレーヤソフトについて

- ピアノプレーヤはご自分の演奏などを録音して聴けるだけでなく、さまざまなジャンルの名曲・ヒット曲を幅広くそろえた〈ミュージックソフト〉が利用できます。世界の一流ピアニストの演奏や、ジャズ・スタンダード、最新カラオケの伴奏などが、ご自宅のピアノプレーヤで再現できます。
- 多彩なミュージックソフトは、アーティスト、リスニング、カラオケ、ミュージック・スタディ、バックグラウンドミュージックの5シリーズ。さらに今は亡き名ピアニストたちの往年の演奏、作曲家の自作自演を収めた〈文化遺産シリーズ〉、ジャンルごとにパックになった、お求めやすい〈セヴェラル・シリーズ〉などもご用意。
- 〈アーティスト・シリーズ〉は、クラシックはもちろんジャズ、ポピュラーにわたる、大演奏家の名演コレクション。バラエティ豊かな〈リスニング・シリーズ〉では、クラシックの名曲アルバムや小品集、ジャズ、ラテン、カントリー、ビートルズ、コンテンポラリー・ポップス（洋楽・邦楽）、オールディーズ、イージーリスニング、アニメソングなど、多彩なジャンルをとり揃えています。
- 音楽のある暮らしにぴったりのソフトも盛りだくさん。音のインテリアとして日常的にお楽しみいただけるBGM集も、リスニング・シリーズからお届けしています。また〈バックグラウンドミュージック・シリーズ〉では、クラシック、ポップス、ニューエイジ音楽から、さわやかな曲を厳選。
- 〈ミュージック・スタディ〉シリーズを中心に、対応楽譜もご用意。さらにフロッピー&テキストのセットで、楽しいピアノ・レッスンをサポートする〈レッスンライブラリー〉もあります。
- どのソフトも、リスニングに合わせて音量・移調・テンポ、リピート機能などが調節できます。



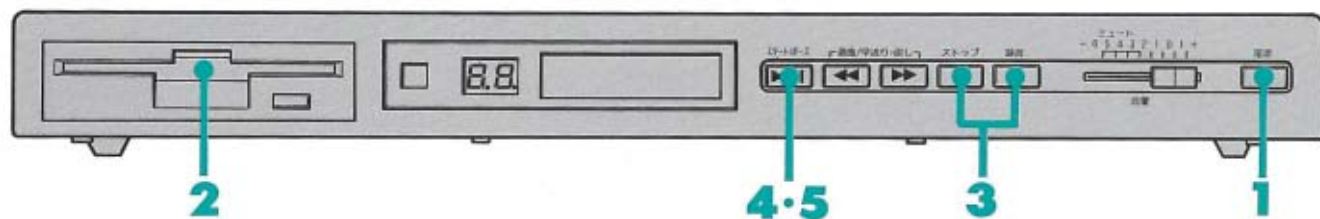
- ソフトの中には、ピアノプレーヤのいろいろな再生機能に対応したタイプがあります。〈LR対応ソフト〉は、パートキャンセル機能を使ってL（左手・低音側）、R（右手・高音側）を別々に再生できるタイプのソフト。ミュージック・スタディ・シリーズやレッスンライブラリー、連弾曲などに採用しています。

LR対応ソフト.....
パートキャンセル機能を活用すれば、片手ずつの再生が行えます。



- LR対応ソフトぞろいの〈カラオケ・シリーズ〉は、1パートにメロディ、もう1つのパートに華麗な伴奏を収録しています。ですから、そのまま再生して聴いたり、メロディに合わせて歌うことはもちろん、メロディ・パートなしの再生もOK。移調機能を使ってご自分のキーに合わせたり、スローなテンポにしたり……コントロールしだいで、思いのままの伴奏が作れます。
- ピアノプレーヤソフトについて、詳しくは別途ソフトカタログをご覧ください。

フォーマットのしかた 新しいフロッピーに録音する際に必ず行います。



1 電源スイッチを押します。

ディスプレイ: デ・ィスクヲ イレテクタ・サイ。

2 新しいフロッピーを入れます。

ディスプレイ: デ・ィスクカ・ フォーマットサレテマセン。

3 ストップボタンを押しながら録音ボタンを下の表示ができるまで押し続けます。

ディスプレイ: フォーマット シマスカ?

4 スタート/ポーズボタンを押します。

ディスプレイ: フォーマット シマスカ??

5 スタート/ポーズボタンをもう一度押します。

ディスプレイ: フォーマット シテイマス。

6 約70秒後、01と曲番号が表示されたら、フォーマット終了。

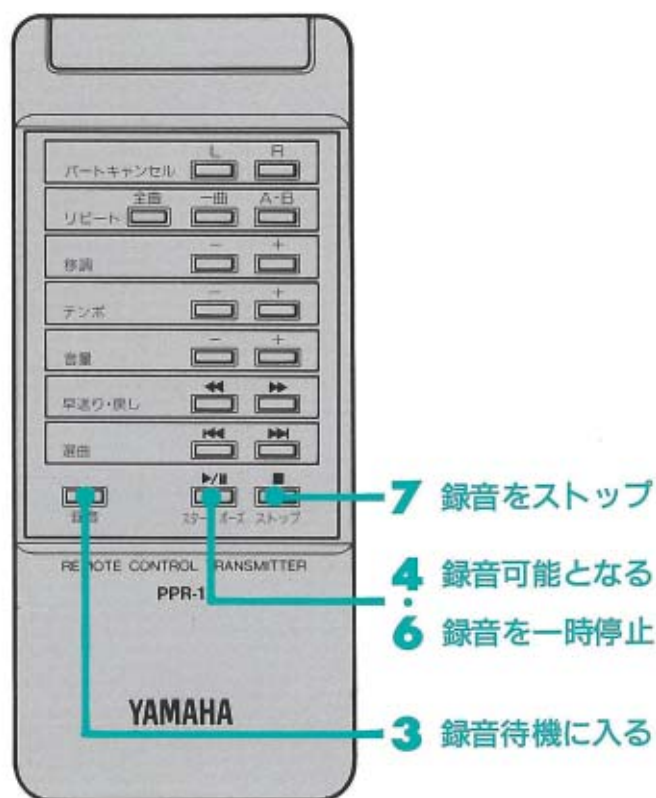
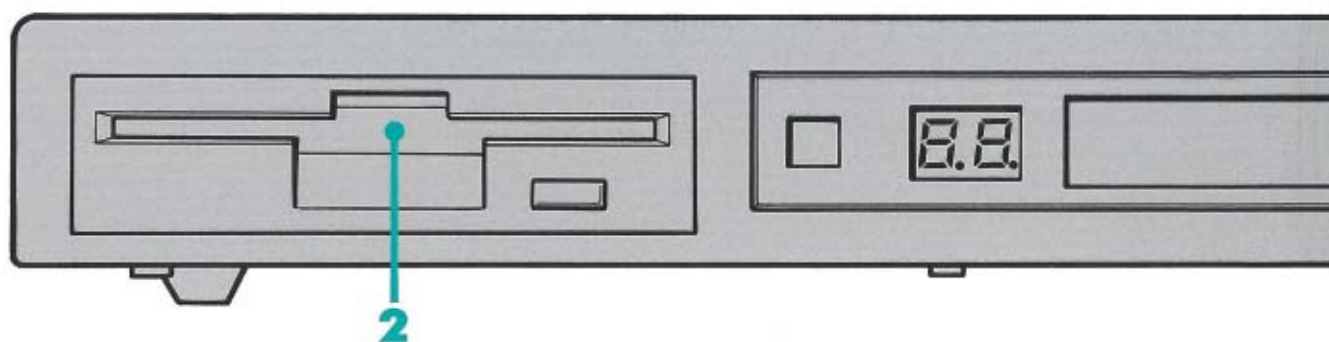
↓ 曲番号が表示される

ディスプレイ: 01

POINT

- 「フォーマットシマスカ」の表示のときにストップボタンを押すと、操作を取り止めることができます。
- フォーマットすると、中に入っていたデータはすべて失われます。
- フロッピーに入っている演奏を全部消したい時には、フォーマットすると全曲を消去できます。また消去防止のかかったフロッピーは、フォーマットできません。 **フロッピーディスクについて P10**

録音のしかた

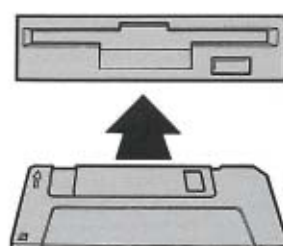


1 電源スイッチを押します。



ディスクトレイ 挿入してください。

2 フォーマット済みのフロッピーディスクを入れます。



シフトキー オマケボタン 挿入してください。

01

3 録音ボタンを押します。



録音待機表示

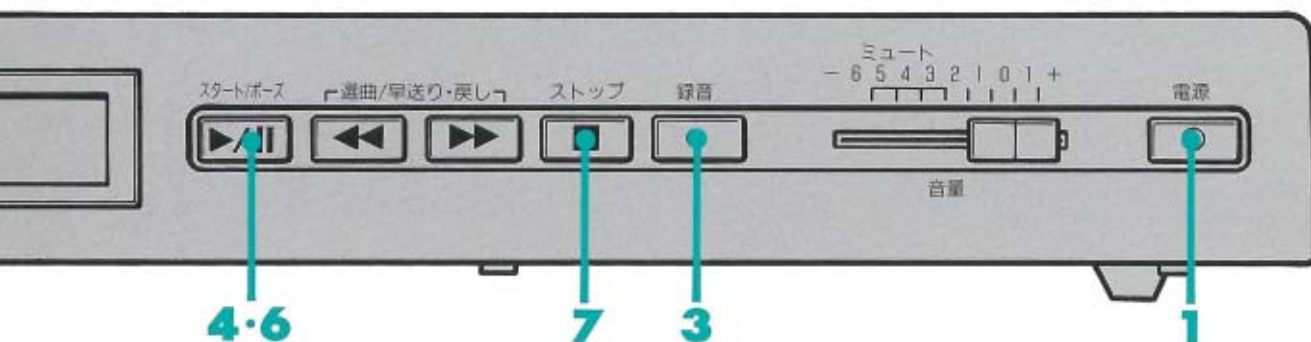
01 <00:00> FREE 100%

↑すでに何曲か録音されているときは、その次の曲番を表示します。

POINT

録音用フロッピーディスクについて P10

- 3.5インチ2DDタイプ (推奨品: ヤマハYFD-2DD) をお使いください。
- 未使用のフロッピーディスクを使うときは、フォーマットが必要です。
- 1枚で、最大60曲まで録音できます。



4 スタート/ポーズボタンを押します。



ピッと音がなり、録音可能になります。

01 <00:01> FREE 100%

5 演奏します。
演奏を始めた時点から録音されます。



演奏と同時に時間カウント開始、録音開始。

01 <00:00> FREE 100%

6 録音中、一時停止したいときはスタート/ポーズボタンを押します。再スタートしたいときはもう一度押します。



7 演奏が終わったら、ストップボタンを押します。



01 シハラク オマチクタサイ。

01

表示が変わったら、録音終了。

フォーマットとは

楽譜を書くときの五線紙の線を書くようなものです。 [フォーマットのしかた](#) P29













未使用のフロッピーディスク

フォーマット中

フォーマット済

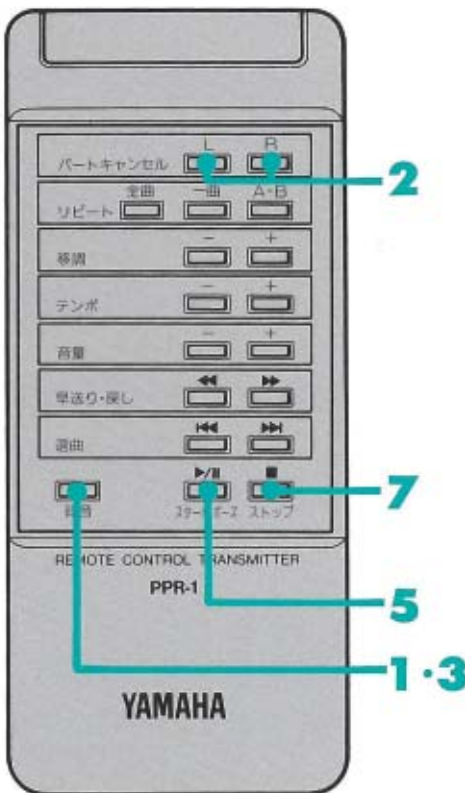
録音機能の切替えについて

通常の録音の他に「曲名・ディスクタイトルの文字入力」「録音モード設定」「録音パート設定」の録音機能があります。録音ボタンを押す回数により切替わります。

録音ボタンを押す回数	機能・ディスプレイ表示	次の操作
1回目 録音 	録音待機 (通常録音) <00:00> FREE100% 	スタート/ポーズボタンを押すと、録音可能な状態になります。 (録音のしかた  P30)
2回目 録音 	曲名・ディスクタイトルの文字入力 	鍵盤・ペダル、又はリモコンのボタンで文字入力を行います。 (曲名・ディスクタイトルの文字入力  P34)
3回目 録音 	録音モード設定 (通常録音とスプリット録音の切替) RECORDING MODE NORMAL	L又はRボタンを押すとスプリット録音モードになります。 (スプリット録音  P33) もう1度L又はRボタンを押すと左の表示に戻ります。 RECORDING MODE L/R RECORDING
4回目 録音 	録音パート設定 (スプリット録音の場合は スプリットポイントの設定) RECORDING PART NORMAL	RECORDING PART L (- 88 KEY -) R スプリットポイントの設定ができます。
5回目 録音 	1回目 (録音待機) の状態に戻ります。	

スプリット録音 (L/R対応録音)

スプリット録音は、鍵盤を低音側と高音側の2つに分ける境目の鍵盤(スプリットポイント)を設定することにより、それぞれをLパート、Rパートとして録音する機能です。通常の再生以外に、パートキャンセル機能(P26)を使ってLパート、Rパートを別々に再生することができます。



1 録音ボタンをつづけて3回押し、録音モード設定を呼び出します。



3回押し

RECORDING MODE
NORMAL

2 L又はRボタンを押し、スプリット録音モードを選びます。



RECORDING MODE
L/R RECORDING

3 もう一度、録音ボタンを押します。



RECORDING PART
L (- 88 KEY -) R

4 スプリットポイントの設定。鍵盤で境目となる1音を弾きます。



又は、リモコンのLRボタンで鍵盤Noを選びます。



Lを押すとNo.が小さくなり、Rを押すとNo.が大きくなります。

RECORDING PART
L (- 47 KEY -) R

5 スタート/ポーズボタンを押すと録音可能な状態になります。

あとは通常録音と同じ要領です。



(00:00) FREE 100%

6 演奏します。 **7** ストップボタンを押すと録音終了。

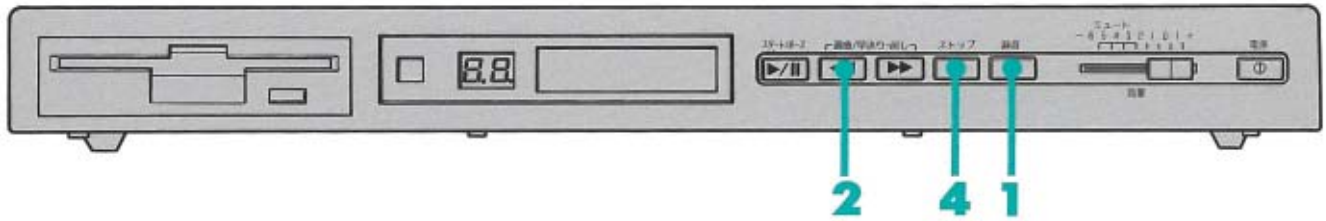


鍵盤No.



4

- 左右の手が交差する曲や、パートの音域が重なる連弾曲などの、パートキャンセルできるオリジナルソフトは作れません。
- スプリットポイントで設定された鍵盤は左手パートの最高音となります。



ディスクタイトルの文字入力のしかた

- 1** 録音ボタンをつづけて2回押し、「曲名・ディスクタイトルの文字入力」機能呼び出します。



↓カーソル表示



- 2** 曲番号が消えるまで◀◀向きの選曲ボタン(戻し)を押しつづけます。



押しつづける



- 3** 文字入力をします。

- 4** 終わったらストップボタンを押します。



POINT

文字入力の例

バイエル77と入力します

リモコンでの文字選択

	操作方法	表示部
1	63keyを押す。ラウドペダルをふむ。	ハハ
2	83keyを押す。ラウドペダルをふむ。	バ
3	39keyを押す。ラウドペダルをふむ。	バイ
4	41keyを押す。ラウドペダルをふむ。	バイエ
5	78keyを押す。ラウドペダルをふむ。	バイエル
6	5 keyを押す。ラウドペダルをふむ。	バイエル
7	ソフトペダルをふむ。(英数/カタカナモード切替)	バイエル
8	12keyを押す。ラウドペダルをふむ。	バイエル 7
9	12keyを押す。ラウドペダルをふむ。	バイエル 77
入力終了の操作(ストップボタンを押す)		



鍵盤での文字選択がLRボタンでできます。

鍵盤の番号順に表示部の文字が変わります。

戻る 進む

文字確定操作(ラウドペダル)を一曲リピードボタンでできます。文字が確定します。

一曲

カーソルの移動は、全曲・A-Bリピートボタンでできます。

全曲 A-B
戻る 進む

一曲消去/全曲消去/再録音



フロッピーに録音された、要らない1曲を消す機能です。
停止中にコントロールユニットのボタンを操作して行ないます。(リモコンではできません)

一曲消去

1 電源スイッチを押します。

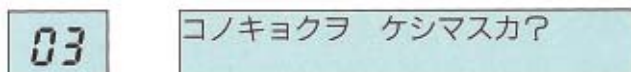
2 要らない曲の入ったフロッピーを入れます。

3 選曲ボタンを押して消したい曲番号を選びます。

↓消したい曲番号を表示させる



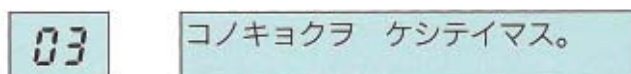
4 消したい曲を表示させたらストップボタンを押しながら早戻しボタンを押します。



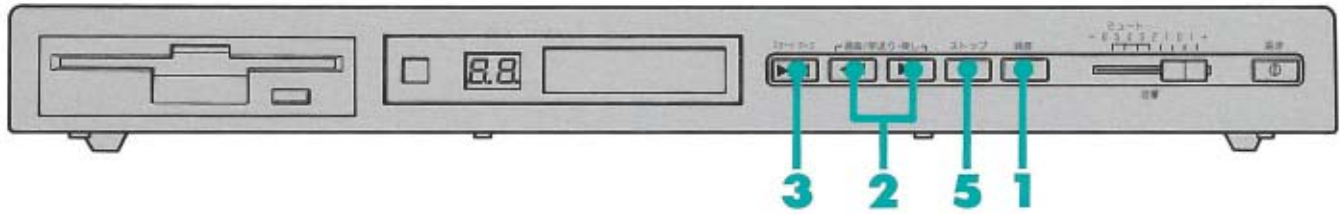
5 スタート/ポーズボタンを押します。



6 もう一度スタート/ポーズボタンを押すと一曲消去がスタートします。



表示が変わると終了





フロッピー1枚まるごと要らないというときは、一度に全部消すことができます。録音の途中で弾き間違えてしまったときは、録音をしなおすことができます。

全曲消去

- フォーマットをするとフロッピーに入った全曲が消去されます。
- フォーマットのしかた(🔍 P29)をご覧ください。


再録音

- 1 録音ボタンを押します。
- 


- 2 選曲ボタンを押して録り直したい曲番号を選びます。
- 

↓録り直したい曲番号を表示させる



- 3 スタート/ポーズボタンを押します。ピッと音がします。
- 

- 4 演奏します。

- 5 演奏が終わったらストップボタンを押します。表示が変わったら再録音終了。
- 

POINT

- 一曲消去をすると演奏と一緒に曲番号も消去され、後の曲番号が繰りあがります。

〈例 3曲目を消去〉

元の曲番号	1	2	3	4	5
	↓	↓	↙	↙	
消去後の曲番号	1	2	3	4	

※ 4曲目以降の曲番号は繰り上がり、それぞれ「元の曲番号-1」曲目となります。

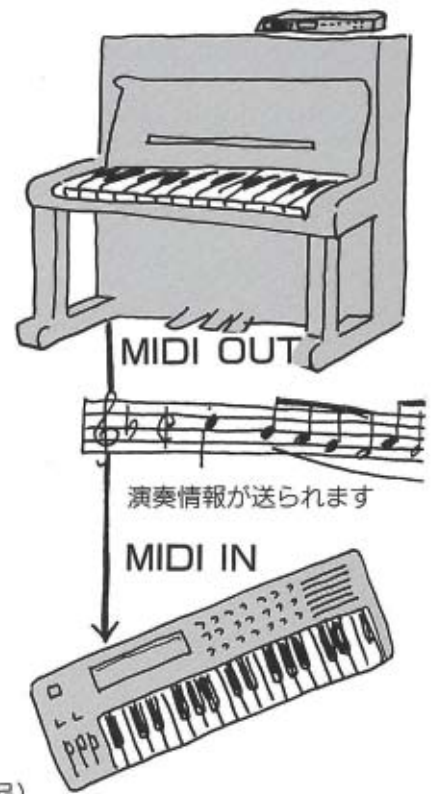
- 消去防止のかかったフロッピーに入っている曲は、消去できません。
- 大事な演奏を誤って消さないためには、曲名・ディスクタイトルの文字入力(🔍 P34)をしたり、フロッピーに消去防止(🔍 P10)をかけておくことをおすすめします。
- 一曲消去をスタートすると、途中で止めることはできません。曲消去実行中にフロッピーを取り出したり、電源を切ったりすると、故障の原因になることがありますので、絶対にしないでください。

MIDIについて

MIDIは、電子楽器同士をMIDIケーブルで接続すると、同時に鳴らしたり、録音した曲を交換しあったりできる、メーカーを超えた世界共通の規格です。ピアノプレーヤも、このひとつ。MIDI規格の楽器ならどれとも、連携プレイが楽しめます。ピアノプレーヤは、MIDI IN、MIDI OUT 端子を1つずつ装備しています。

MIDI IN	演奏情報を受けとる
MIDI OUT	演奏情報を送り出す

MIDI楽器に装備されているこれらの端子同士を、MIDIケーブルでつなぎ、数台ぐらまでの連携プレイを楽しむことができます。接続は、必ず楽器の電源を切ってから行いましょう。



MIDI端子
(リアパネルにあります)



接続に使うMIDIケーブル



アンサンブル再生

*1
ピアノプレーヤアンサンブル対応ソフトと *2
GM対応の音源モジュール(例えばTG100等のトーン・ジェネレーター)を用いて、生ピアノと音源のアンサンブル再生を楽しめます。



- 音源には、管楽器、弦楽器、リズム楽器などさまざまな音色(ボイス)が内蔵されています。ピアノプレーヤから演奏情報を送り、生のピアノと一緒に演奏します。
- ピアノプレーヤのMIDI OUT端子と音源のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続。ケーブル先端のピンと端子の穴が合うようにしっかり差し込みます。ただし、一般に音源はそのままでは鳴りません。音源のLINE OUT端子とアンプのLINE IN端子をオーディオケーブルでつなぎ、アンプをスピーカーにつないで音を出します。
- 再生のしかたは、通常と全く同じです。

音量調整	ピアノの音量はピアノプレーヤで、音源の音量はアンプ、音源のボリュームで調整してバランスを取って下さい。
移調機能	音源に対して移調機能は動作しません。

ピアノプレーヤでアンサンブル対応ソフトを再生するとあらかじめフロッピーに記録されている音色の設定、音量の設定、音を鳴らす、音を止める等の情報をMIDI OUT端子から音源のMIDI IN端子へ送信します。

それらの情報にはそれぞれ1~16のチャンネルがあり、パート毎に区別して使うことができます。

ピアノプレーヤではch1~3をピアノ専用チャンネルとして使用し、その他のチャンネルを音源のパートで使用します。

音源はそれぞれのチャンネルの情報を同時に受けて、各パート一斉に演奏します。

実際の曲では

ピアノLパート……ch1			
ピアノRパート……ch2			
ベースパート……ch4	ベース音色 の設定	音量の 設定	
バイオリンパート…ch6	バイオリン 音色の設定	音量の 設定	
}	}	}	}
ch16	}	}	}

等とMIDI OUT端子から送信されます。

曲により様々に設定されます。

※市販ピアノプレーヤアンサンブルソフトはピアノパートを音源で鳴らさない様ch1、ch2の音量は0に設定されています。

POINT

*1▶ピアノパートにアンサンブルパートを加えたソフト。

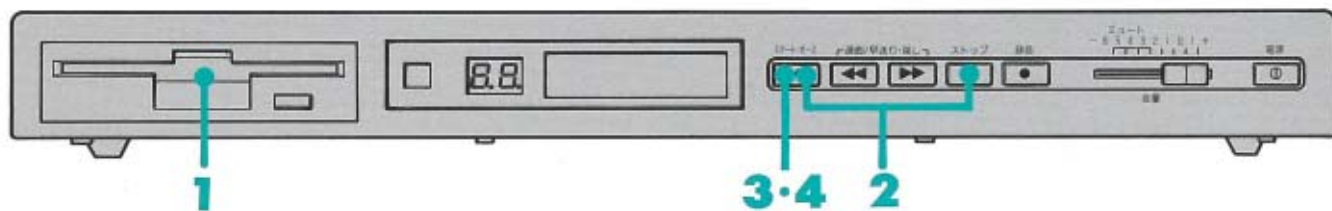
*2▶GMとはGeneral MIDI System Level 1の略です。

音色の配列に一定の基準を設けて、メーカーや機種が異なってもほぼ同じ音色で曲データを再現できるようにしたMIDI音源機器に関する統一規格です。

ピアノプレーヤアンサンブルソフトはGM対応音源とピアノプレーヤで演奏できるように作成されています。

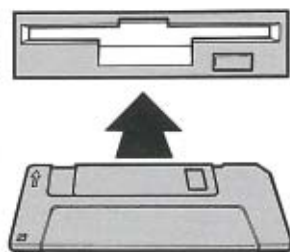
※詳しくはMIDI音源の取扱説明書をご覧ください。

登録について



本機はヤマハデジタルシーケンサーQX3等で録音した曲を再生できます。再生する時は事前に「登録」の操作を行なってください。

1 QX3等で録音したフロッピーを入れます。



ファイルカ°ミツカリマセン。
トウロク シナオシテクタ°サイ。

2 ストップボタンを押しながらスタート/ポーズボタンを押し続けると下の表示に変わります。



トウロク シマスカ?

3 スタートボタンを押します。



トウロク シマスカ?

4 もう一度スタートボタンを押します。



トウロク シテイマス。

01 01 < 00:45 >

↑
曲順番

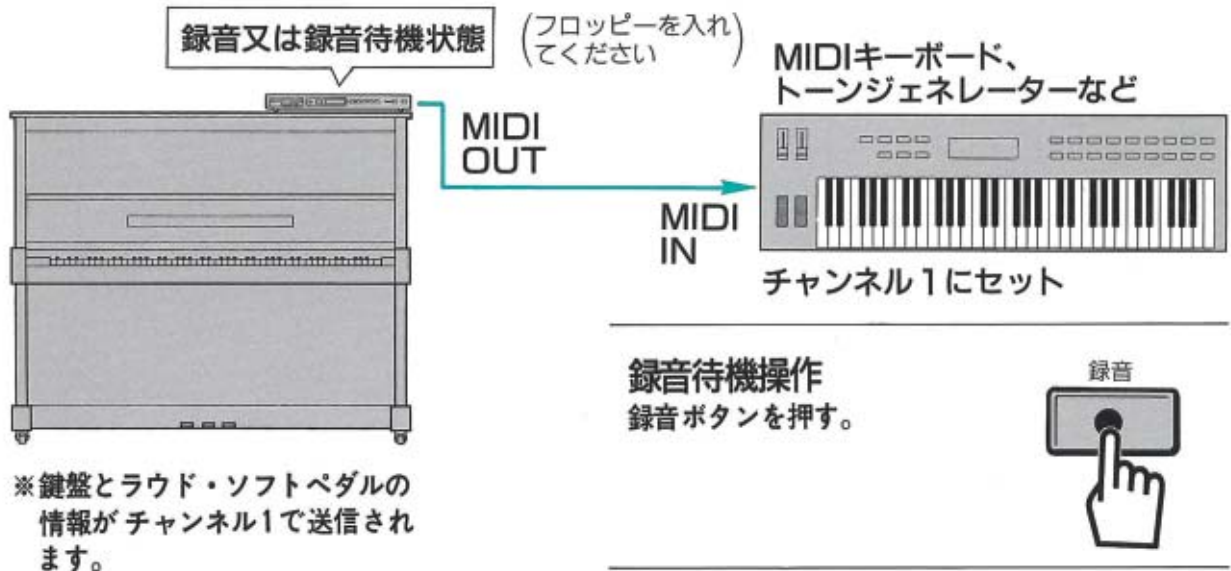
↑
チャンネル

登録が完了し、ピアノプレーヤで再生できます。

MIDIシステム例

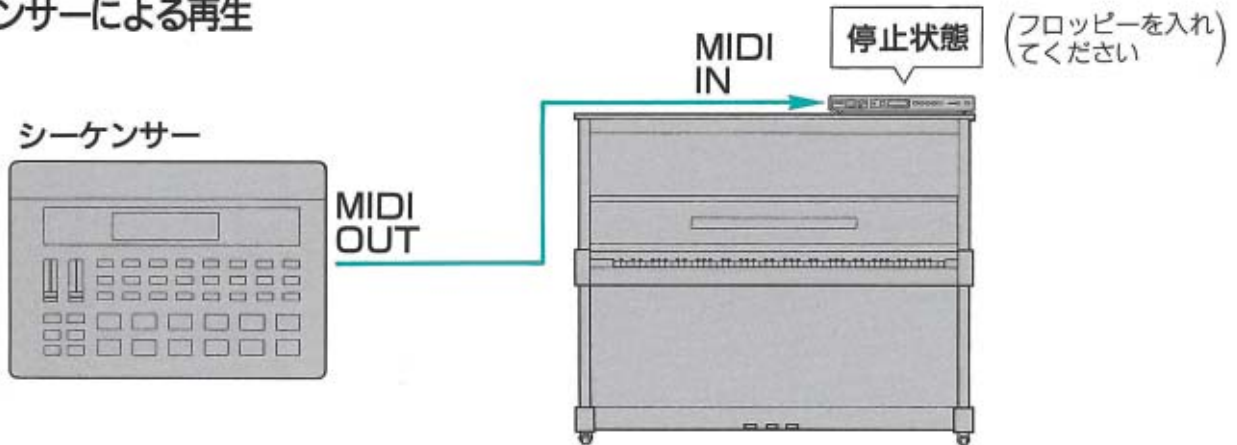
●ピアノプレーヤをMIDIマスターキーボードとして使う

実際に手で弾いて、外部の音源を同時に鳴らす(録再モデルのみ)



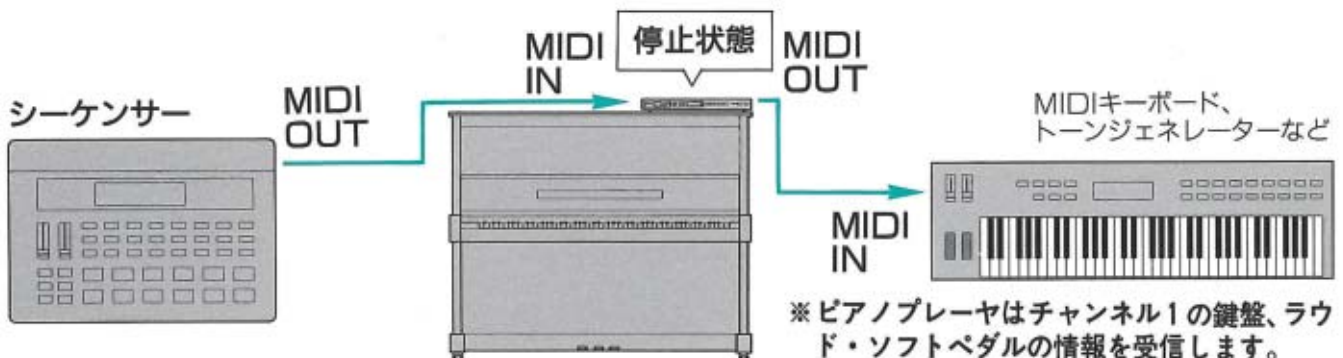
●ピアノプレーヤをMIDI音源として使う

シーケンサーによる再生



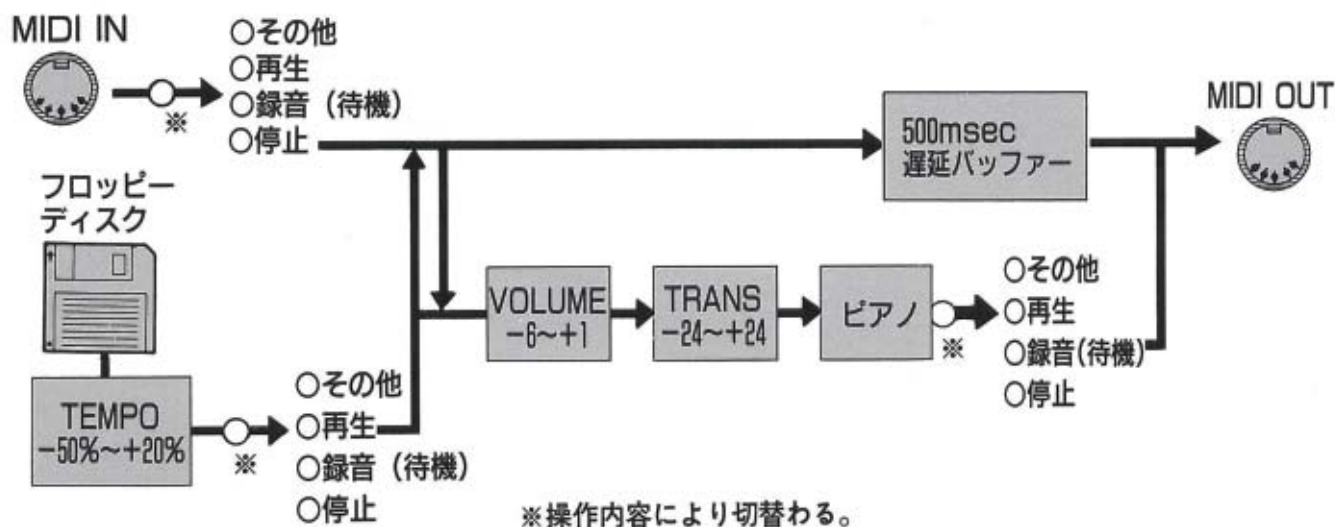
シーケンサーによる他の機器との同期再生

シーケンサーなどでピアノプレーヤと他の機器をつなぎ、鳴らしたいときは、図のようなピアノプレーヤのMIDI OUTを経由してつないでください。(フロッピーを入れてください)



MIDI機能

●ブロックダイアグラム



500msec遅延バッファ

ピアノプレーヤの場合、MIDI IN 端子にデータがとりこまれてから実際に音がでるのは0.5秒(500msec) 後です。(これはフロッピーディスクでの通常の再生も同じ) そのため、ピアノプレーヤと同じタイミングで他の機器を鳴らしたいときは、ピアノプレーヤの発音タイミングに合わせる必要があります。そのため、ピアノプレーヤと他の機器をつなぎ同時演奏したいときは、ピアノプレーヤのMIDI OUTと他の機器のMIDI INをつないでください。

各操作と入出力切替および500msec遅延バッファの関係

操作内容	IN	OUT	500msec遅延	
再生	×	○	ON	○ : 通信可能状態
録音(待機)	×	○	OFF	×
停止	○	○	ON	ON : 500msec遅延状態
				OFF : 500msec遅延せず

MIDIインプリメンテーションチャート

[PIANO PLAYER] Date:2/7,1993
 Model RF MIDI Implementation Chart Version:1.0

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default Changed	1 ○ (1-2)	1 ×	L/R hand
Mode	Default Messages Altered	3 × *****	3 × ×	
Note Number :	True voice	21-108 *****	21-108 21-108	
Velocity	Note ON Note OFF	○ 9nH, V=1-127 × 9nH, V=0 *1	○ V=1-127 ○	
After Touch	Key's Ch's	× ×	× ×	*1
Pitch Bend		×	×	*1
Control Change	64	○	○	
	67	○	○	
Prog Change : True #		× *****	× *	*1
System Exclusive		×	×	*1
Common :	Song Pos	×	×	
	Song Sel	×	×	
	Tune	×	×	
System Real Time :	Clock	×	×	
	Commands	×	×	
Aux :	Local ON/OFF	×	×	
	All Notes OFF	×	○	
Mes-	Active Sense	○	○	
sages :	Reset	×	×	
Notes	All recognized data are transmitted 500msec later if controller mode is STOP or PLAY. *1 All data are enabled to transmitted as record data if other E-seq disk is used and mode is PLAY.			

Mode 1 : OMNI ON, POLY Mode 2 : OMNI ON, MONO ○ : Yes
 Mode 3 : OMNI OFF, POLY Mode 4 : OMNI OFF, MONO × : No

MIDI

エラーメッセージについて

本機は、不適当な操作を行なおうとした場合など、不都合が起きると、ディスプレイに警告やエラーを意味するメッセージを表示することがあります。このようなときには、原因を確認したうえで適切な処置を施してください。また、ここでは故障と勘違いしやすいメッセージも記載します。

★印は録再モデルのみ

表 示	原 因	処 置
テ°ィスクヲ イレテクタ°サイ。	電源をONにすると必ず表示されます	
★ テ°ィスクニ フ°ロテクトカ°カカッテイマス。	フロッピーの録音内容が保護されています	録音や曲名/ディスクタイトルの入力をする場合には、フロッピーの消去防止用のツメを解除してください
テ°ィスクカ° フォーマットサレテマセン。	フォーマットをしていないフロッピーを挿入した	新品のフロッピーに録音する場合にはフォーマットする必要があります
コノテ°ィスクハ ツカエマセン。トウロク ヲ シテクタ°サイ。	他のシステムで使用していたフロッピーを挿入した	他のシステムで使用していたフロッピーを使用するには、登録する必要があります
ERROR OCCURRED// (PUSH STOP KEY/)	フロッピーの不良	フロッピーを交換してください
	ハードの異常	ストップキーを押してエラー表示を解除してください。もし頻繁に起こるようであれば、販売店またはヤマハサービス窓口にご連絡ください
ファイルカ° ミツカリマセン。トウロク シナオシテクタ°サイ。	再生中または録音中にエラーが発生した	登録しなおしてから、再録音する
	再録音している途中で、フロッピーのメモリー容量を超過した	登録しなおすと共に、他のフロッピーに録音する
★ フォーマットテ°キマセン。	フロッピーの不良	フロッピーを交換してください
コノテ°ィスクニハ コレイシ°ヨウキロクテ°キマセン。	フロッピーのメモリー容量がいっぱいになった	他のフロッピーに録音してください
トウロク テ°キマセン。	フロッピーの不良	フロッピーを交換してください
★ コノキョクハ トリナオシテ°キマセン。	市販のピアノプレーヤソフトは再録音できません	
シハ°ラク オマチクタ°サイ。	操作できる状態になるまでに時間がかかる時には、必ず表示されます。この表示の時にフロッピーを取り出さないでください	
★ ロクオン/サイセイテ°キルキョク スウハ 60キョクマテ°テ°ス。	1枚のフロッピーに61曲めを録音しようとした	1枚のフロッピーに録音できる曲数は最大60曲です。別のフロッピーに録音してください
ホ°タンヲ オシテクタ°サイ。	5分間停止状態のときに表示されます	次の操作ボタンを押してください

ちょっとお調べ下さい

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しなかったり、下記以外で何か異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、最寄りのヤマハまでご連絡ください。

★印は録再モデルのみ

現 象	原 因	処 置	
電源が入らない	電源プラグまたは接続ケーブルの差し込み不完全	確実に差し込んでください	
録音できない	電源プラグの差し込み不完全	確実に差し込んでください	
	フォーマットしていないフロッピーを挿入した	フォーマット済のフロッピーを入れてから操作してください	
	フロッピーに消去防止がかかっている	消去防止ツメをスライドさせてください	
	フロッピーのメモリー容量の残りが少なくなった	他のフロッピーに交換してください	
	61曲めを録音しようとした	1枚のフロッピーに録音できる曲数は60曲までです。他のフロッピーに交換してください	
再生ができない	電源プラグの差し込み不完全	確実に差し込んでください	
	他のシステムで使用していたフロッピーを再生しようとした	登録をしてください	
	消去済みの曲を再生しようとした		
	録音を誤って中断したため、録音されていない	再録音してください	★
何度も繰り返し、再生されてしまう	リピート機能が働いている	リピート機能を解除してください	
録音した時と違う音量または違うテンポ、違う音程で再生される	再生時の調節機能が働いている	音量の設定、テンポの設定、移調の設定をノーマルの状態に戻してください	
弾かない音が出る	ミスタッチした音が録音されている	確実に演奏して再録音してください	★
再生時に、ピアノから接触音が聞こえる	駆動部が鍵盤後方下部を突き上げる仕組みなので、再生時に音量を下げると接触音が聞こえることがあります		
再生時に音抜けする	三連符、トリルなど速いパッセージで、鍵盤が元の位置に戻らないうちに次の打鍵が始まる曲は、再生時に音抜けを生じることがあります	テンポの設定を遅くし、音量を上げてみてください	
	テンポの設定が速すぎる	テンポを遅くしてください	
	音量の設定が低すぎる	音量を上げてください	
	録音した時の演奏が弱すぎる	確実に演奏して再録音してください	★
再生時のアクセント表現が、録音した時と違う	録音した時の演奏が弱すぎる	確実に演奏して再録音してください	★

電 源	AC100V±10% 50/60Hz
定格消費電力	120W
コントロールユニット	
寸法	間口435×高さ47×奥行173mm 重さ1980g
パネルスイッチ	7 (電源・音量・スタート/ポーズ・選曲/早送り戻し・ストップ・録音) [録音/再生型]
	6 (電源・音量・スタート/ポーズ・選曲/早送り戻し・ストップ) [再生専用型]
LCD	16文字×2
LED	7セグメント×2桁
記録メディア	3.5インチ フロッピーディスク(2DD)
最大記録	曲数：60曲
	記録容量：628Kbyte
	曲名：32文字
	ディスクタイトル：64文字
ドライブユニット	
キードライブ	88鍵
	最大同時発音数：16音
ペダルドライブ	ラウドペダル(内部駆動型)
センサーユニット	(録再モデルのみ)
キーセンサー	88鍵
	最大同時発音数：16音
ペダルセンサー	ラウド・ソフトペダル
入出力	MIDI IN/OUT
使用条件	温度：5～40℃
付属品	取扱説明書(本書)、リモコン リモコン用電池(単3×2個)
	ジョイフルソフト、ジョイフルガイド blankディスク、ジョイフルパックビデオ [録音/再生型]
	試聴用ソフト(サウンドライブラリー) [再生専用型]

保証とサービスについて

本機の保証期間は、保証書によりご購入から1ヶ年です。(現金、ローン、月賦などによる区別はございません。)
また保証は日本国内にてのみ有効といたします。

●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください。(保証書はピアノ本体と共通です。)

●保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1ヵ年間の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくこととなります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮のうえで保管してください。また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別や、サービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買い上げ店にご連絡頂きますと、技術者が修理・調整致します。この際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合にはサービス料金を頂く場合もあります。又お買い上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買い上げ店あるいはヤマハにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続き致します。

満1ヵ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっています。そのほかご不明の点などございましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせください。

ピアノの保守点検等のサービスに関するお問い合わせは、お買上げいただきましたヤマハ楽器特約店の他、下記ヤマハ各支店にてお受け致しております。

- 北海道支店 ☎064 札幌市中央区南10条西1丁目 ☎011(512)6114
- 仙台支店 ☎980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル ☎022(222)6148
- 東京支店 ☎104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル ☎03(3572)3145
- 関東支店 ☎104 東京都中央区銀座7-9-18 パールビル ☎03(3572)3120
- 名古屋支店 ☎460 名古屋市中区錦1-18-28 ☎052(201)5145
- 大阪支店 ☎542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館 ☎06(252)8731
- 広島支店 ☎730 広島市中区紙屋町1-1-18 ☎082(244)3748
- 九州支店 ☎812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 ☎092(472)2152

音についてのご相談・お問い合わせ

上記のヤマハ各支店、および下記のヤマハピアノシティの「音の相談室」

もしくは「音の相談コーナー」では、音に関するご相談・お問い合わせをお受け致しております。

- ヤマハピアノシティ渋谷 ☎150 東京都渋谷区宇田川町14-5 渋谷パルコパートIII7F ☎03(5458)0441
- ヤマハピアノシティ梅田 ☎530 大阪市北区梅田1-3-1/大阪駅前第一ビル ☎06(345)6551
- ヤマハピアノシティ東山 ☎464 名古屋市千種区東山通5-65/ヤマハ東山センター ☎052(782)6631

ヤマハ株式会社サービス・ネットワーク



所在地・電話番号など、都合により変更する場合がございますので、ご了承下さい。

ヤマハ株式会社

鍵盤営業本部 ピアノ営業部

〒430 浜松市中沢町10-1 TEL.(053)460-2181代

YAMAHA
YAMAHA CORPORATION